

平成28年度事業実績報告 (案)

自：平成28年4月 1日
至：平成29年3月31日

目次

事業実施状況並びに期末評価	66～82
事業別利用実績	83, 84
年度別利用率の推移	85
利用者の状況	86, 87
事業・職種別職員数一覧	88
職員の動向等	89
施設外研修一覧	90
施設内研修一覧、資格取得状況一覧	91
外部実習受入及び地域交流等の状況	92, 93
苦情解決	94
地域包括支援事業（上越市受託事業）	95～97

社会福祉法人 上越頸城福祉会
しおさいの里等複合施設

特別養護老人ホームしおさいの里
障害者支援施設 さいはま園
デイサービスセンターゆりかご荘
しおさいの里居宅介護支援事業所
地域包括支援センターうのはな苑

平成28年度 事業実施状況ならびに期末評価(案)

1-1)しおさいの里等複合施設全体

事業目標：地域と共存しながら、関わるすべての人たちが生き生きと感じられる事業運営を目指します。	
重点目標	実施状況・期末評価
①「介護予防」から「中重度の要介護者」まで、幅広いニーズに応える観点からの「支援・ケア体制の見直し」を行います（だんだん広場、半日型デイサービス、一日型デイサービスがより一体的となったサービス提供体制の構築等）。	<ul style="list-style-type: none"> ・計画通り、4月1日からデイサービスセンターの利用定員を30人から37人（一日型、半日型合計）に増員した。 ・半日型デイサービスを充実させるため、営業日をこれまでの週2日から週6日に拡大するとともに、介護予防業務の経験がある介護職員を1名、外部から増員した。 ・在宅支援課（地域包括支援、居宅介護支援、デイサービスセンター）職員が相互に積極的にだんだん広場、半日型デイ、一日型デイ間に向向き、各ご利用者との顔の見える関係づくりに努めた。結果、だんだん広場から半日型デイ、半日型から一日型デイ等へのスムーズな利用移行の事例が見え始めてきた。
②地域や関係機関等、外部との交流を促進することで、地域に暮らす高齢者の活躍の場の提供や施設利用者の生活支援の充実に努めます（法人ボランティアコーディネーターの設置。夕映えの郷とのさらなる業務連携等）。	<p><28年度からの新たな取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターと高齢介護課が連携して法人ボランティアコーディネーター（相談援助職が担当）を設置し、地域の元気な高齢者に対し、活躍の場を提供した（リネン交換やクラブ活動（お針クラブ）での活動支援等）。 ・デイサービスセンターが主体となり、地域交流の一環として「フリーマーケット」を施設内で開催した（11/19）。 ・夕映えの郷との連携の一環として、合同イベント（第1回うみまちフェスティバル）の開催や、さいはま園と夕映えの郷利用者との交流（お食事会、ファッションショー等の企画や、夕映えの郷からの出張販売等）を行った。
③法人内に「認知症介護指導者」を配置し、当複合施設並びに地域全体の認知症介護の質の向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度に認知症介護指導者研修を修了した職員（地域包括支援センター社会福祉士）に対し、本指導者の兼務辞令を発令し、認知症介護に関する新たな取り組みを開始した。 <p><実際の取り組み内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアの基本となる職員のコミュニケーション力向上に関する研修会の開催（5/30） ・本人の視点に立ったケアを検討するための手立てとして開発された「ひもときシート」の活用勉強会の開催（9/26, 27）と実際のケース検討（ショートステイ利用者）に活用した。 ・外部研修会への参加依頼を受け、運営補助として活動した（・認知症介護実践者研修（上越市内、計9日間）、・ひもときシート活用シンポジウム（2/14、東京都）、・認知症ケアステップアップセミナー（3/2、長岡市）
④職員が健康で、生き生きと働ける環境づくりに努めます。その一環として、精神面（ストレス軽減）に配慮した取	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルス対策として、外部講師に上越保健所職員を招き、福祉職員向けのメンタルヘルス研修を行うことでメンタルヘルス向上に努めた。又、研修会では11月に実施したストレスチェックについて事前研修を受けるこ

<p>り組みを推進します。</p>	<p>とでストレスチェック制度について理解を深めることができた。(参加者：98名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月にストレスチェックを実施。職場における自己のストレス状況を各自客観的に知ることができた。
<p>⑤キャリアパス要件(職員の職位、職責、職務内容等に応じた任用等の要件)について、夕映えの郷と共同で検討することで介護報酬の増加を目指します(現状の介護職員処遇改善加算ⅡからⅠへの変更取得を目指す)。</p>	<p>・県内の他の社会福祉法人で取り組まれているキャリアパス要件について情報収集を行いながら、当法人での要件を夕映えの郷と共同で整理した。</p> <p>なお、介護職員処遇改善加算ⅡからⅠへの算定変更については、平成29年4月から開始することとした(なお、介護保険制度改正により、平成29年4月から「旧加算Ⅰ」は「新加算Ⅱ」に変更となる)。</p>
<p>⑥業務の効率化として「記録の電子化」の導入について、モデル部署を選定し検討を行います。</p>	<p>さいはま園において、平成29年2月に導入を実施。すぐに導入できるよう開始前からシミュレーションと研修会を重ね、推進担当はマニュアルを作成し、比較的スムーズに実施することができた。利便性については、身体状況は統計化され、病院サマリーなどは即時に作れ、集団の一括入力や定例文がボタン一つで入力可能などもあり、さらに業務効率化につなげていく。</p>
<p>⑦新電力(電力自由化)等の導入や、業務改善、コスト意識の向上により、さらなる経費削減に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・光熱費の削減について新電力導入について検討し8月から導入を行った。 ・節水システム機器の実績効果を検証し28年度も引き続き継続した。 ・光熱水費は様々な相乗効果により、施設全体で前年比約300万程度削減できた。
<p>⑧上越市が第7期介護保険事業計画(平成30年度～)で実施を予定する「地域包括支援センターの再配置」に伴い、現在の受託法人として今後の対応を検討していきます。</p>	<p>・今年度は、上越市から各地域包括支援センターに対し、再配置に関するアンケート(担当エリアの集約案等)が行われた。その後の市からの詳細な情報は示されなかったが、法人内・在宅支援課を中心に、地域住民や受託法人としての再配置に伴うメリット、デメリット等について検討した。結果、これまで行ってきた地域包括支援センター業務のノウハウを活かし、今後も継続して事業を受託していくことを前提に、次年度も法人として準備を進めていくこととなる。</p>

1-2)在宅支援課

部門目標：介護予防から要介護まで、継続かつ一貫性のあるサービス体制の構築を目指します。

重点目標	実施状況・期末評価				
<p>①デイサービスセンターの利用定員を30人から37人に増員します(通所介護と現行相当サービス(従来の介護予防通所介護))の対象者を30人程度、通所型サービスA(基準を緩和したサービス)の対象者を7人程度の利用率とする)。</p>	<p><28年度のデイサービスセンター利用実績(延べ利用者数)></p>				
	<p>チェックリスト該当者</p>	<p>要支援 1・2</p>	<p>要介護 1～5</p>	<p>合計</p>	
	<p>27年度</p>	<p>92人</p>	<p>1056人</p>	<p>6232人</p>	<p>7380人</p>
	<p>28年度</p>	<p>421人</p>	<p>780人</p>	<p>7031人</p>	<p>8232人</p>
	<p>増減 (前年比)</p>	<p>329人 (458%)</p>	<p>△276人 (74%)</p>	<p>799人 (113%)</p>	<p>852人 (111%)</p>
	<p>・結果、年間合計で延べ利用者数が対前年比852人(111%)増加した。 (一日平均利用者数 27年度：23.5人 28年度：26.3人)</p>				

<p>②半日型デイサービス(主に通所型サービスAの対象者)の運営日を週2日から週6日に拡大し、年間で17人の新規利用者の受入れを目指します。</p>	<p>・「1-2-3) デイサービスセンター部門目標⑥」参照。</p>
<p>③介護予防教室だんだん広場、半日型デイサービス、一日型デイサービス間での連携を強化することで、中長期的な利用者確保の安定化につなげていきます。</p>	<p>・「1-1) しおさいの里等複合施設全体重点目標①」参照。</p>
<p>④居宅介護支援部門での利用者の担当件数を現状より年間で6人、増やします。その後の受入れ状況により、介護支援専門員の配置数(増員)について検討します。</p>	<p><28年度の担当受持人数></p> <ul style="list-style-type: none"> ・28年度 1,242人(月平均103.5人 担当職員1人あたり34.5人) ・27年度 1,189人(月平均99人 担当職員1人あたり33人) <p>前年度に比べ、月平均で4.5人増加した。また、介護支援専門員の増員については、今年度の受持人数の増加の現状ならびに地域包括支援センター再配置に伴う法人内での組織体制の変更も考慮し、次年度以降に見送ることとした。</p>
<p>⑤上越市が第7期介護保険事業計画で実施を予定する「地域包括支援センターの再配置」計画に関する情報収集を行いながら、法人事業運営の方向性を検討していきます。</p>	<p>・「1-1) しおさいの里等複合施設全体重点目標⑧」参照。</p>

1-2-1)地域包括支援センター

<p>部門目標：上越市大潟区の「地域包括ケア」の中核機関として「公益性」、「地域性」、「協働性」の基本的な視点を持って、高齢者が住み慣れた地域で尊厳あるその人らしい生活を送ることができるように「地域包括ケアシステム」の構築を目指します。</p>	
<p>重点目標</p>	<p>実施状況・期末評価</p>
<p>①包括的支援事業が効率的・継続的に取り組めるように活動内容の点検や評価を定期的に行うとともに、業務マニュアルの作成を進めていきます。</p>	<p>毎月「地域包括運営会議」を実施し、業務の進捗状況を確認し、情報の共有を図った。検討課題として職員の業務量を調整するため、担当地区の見直しを行うなど、業務の改善を行った。業務マニュアルの作成に向けて具体的な取り組みはできておらず、会議で業務方法の共有を図り、マニュアルの作成につなげていく。</p>
<p>②前年度まで地域ケア会議で取り組んでいた見守りネットワークの体制づくりを具体的に進めていけるように関係者と検討していきます。</p>	<p>具体的な取り組みはないが、町内集落全国サミットに参加し、他地域での高齢者の介護予防の取り組み、住民組織の主体性を学んできた。今後、関係団体の代表者とネットワークづくりについて話し合いを行っていく。</p>
<p>③地域の元気な高齢者が生き生きとした活動が継続できるように他機関と連携を図り、住民同士のつながりを支</p>	<p>地域の高齢者に対し、区内サービス事業所のボランティア活動の周知や受付を行い、事業所のボランティア活動につなげる支援を行うことができた。</p>

援していきます。	
業務目標① 総合相談支援事業	実施状況・期末評価
a. 地域の様々な相談に対し、関係機関と連携を図り、適切な支援を行います。	年間相談延件数 1295 件。月平均 107 件。地域包括支援センターが周知され、電話や来所されるケースが増えてきている。行政や医療、介護との連携以外にも民生委員や地域住民から相談を受け付け、必要な支援を行った。
b. 地域住民の見守り・相談体制を強化するために、高齢者とのつながりのある銀行や商店等の関係機関へパンフレットや広報誌を配布するなど周知活動を強化していきます。	年 3 回広報誌「おおがたうのはな日和」を発行し、区内に全戸配布した。市内の地域包括支援センターやサービス事業所等にも郵送するなど取り組みの周知活動を図った。さらに多くの関係機関に周知するための取り組みを継続していく。
c. 65 歳以上の独居高齢者及び 65 歳以上の高齢者のみの世帯を個別訪問し心身の状況、家族等の状況等の実態把握を行います。(27 年度実績より月 10 件訪問を増やします。)	年間 400 件の目標に対し、204 件の訪問。月間予定で訪問日を設定しても業務の調整ができずに訪問できないことが多かった。継続訪問の方の場合、より情報収集ができるようになっており、活動の成果が出ている。
業務目標② 権利擁護事業	実施状況・期末評価
a. 高齢者虐待や消費者被害の防止、日常生活自立支援事業、成年後見制度等の普及・啓発を目的に講演や研修会を実施します。	高齢者虐待に関する相談に対し、市の高齢者虐待防止マニュアルに沿って大潟区総合事務所や関係機関と連携を図り、虐待の終結に向けて支援を行った。 認知症の方の金銭管理等を目的に成年後見制度の相談が 6 件あり、そのうち 1 件の申し立て支援を行った。 介護予防教室で悪徳商法・特殊詐欺について講座を開催し、地域住民に消費者被害について啓発を行った。
業務目標③ 包括的・継続的ケアマネジメント事業	実施状況・期末評価
a. 頸城区と合同の個別地域ケア会議を通じて、大潟区総合事務所とともに大潟区の現状と課題の把握に努めます。	大潟区と頸城区の合同開催でそれぞれ 3 回ずつ、計 6 回実施した。大潟区総合事務所と地域の居宅介護支援事業所の管理者と事例の選定やより意見が出しやすいようにするための工夫に事前に打ち合わせし、事例検討することができた。個別地域ケア会議の内容から地域課題を把握し、地域ケア会議につなげていくことができた。
b. 地域課題に対して大潟区地域ケア計画を作成し、様々な関係者と解決に向けた地域ケア会議を実施します。	年度当初に大潟区総合事務所と居宅介護支援事業所の管理者と地域課題を把握するために打ち合わせを行い、認知症をテーマに区内の町内会長、民生委員、住民団体、介護サービス事業所に参加していただき、当事者の立場に立って自分たちにできることをグループワークで検討を行い、意見の共有を図った。今後は検討された意見が実際に取り組みとして動き出せるように関係者との協議を行っていく必要がある。
c. 介護支援専門員に対し、自立支援に資するケアマネジメントの支援を行うとともに介護支援専門員同士の交	介護支援専門員からの相談に対し、情報提供や同行訪問、関係機関との調整を図るなどのケアマネ支援を行った。介護支援専門員連絡会は 1 回開催し、介護用ソフト食の試食や区保健師から栄養指導を実施した。介護支援専門員

流や資質向上の場となるように事例検討や研修を実施します。	同士の交流や連携を図るためにも連絡会を定期的に開催していくことが必要である。
業務目標④ 第1号介護予防支援事業 (介護予防ケアマネジメント)	実施状況・期末評価
a. チェックリスト対象者、要支援1及び2認定者に対してケアマネジメントが適切に行えているか職員間で把握するとともに地域連携連絡票の作成をしていきます。	介護予防サービス計画書の作成について市の研修に参加したり、実地指導により日頃のケアマネジメントについて点検を行い、運営基準の再確認をすることができた。地域連携連絡票の新規作成、更新時の見直しまで行うことができなかった。
b. 委託している事業所に対して介護予防サービス計画が適切に作成されているか確認を行い、必要に応じて指導していきます。	介護予防サービス計画書を確認するときは現行相当サービスを位置づける場合の根拠が記載されているか確認するとともに、状況を把握するようにしている。介護支援専門員からサービス担当者会議の依頼があった場合には可能な限り参加し、必要に応じて助言を行った。
業務目標⑤ その他の事業	事業実施・期末評価
a. 高齢者の生き生きとした活動が継続できるように「だんだん広場」や「いきいきサロン」等で介護予防の取り組みを提供していきます。	3クラスで107名が参加されている。介護サービスの移行で2名、その他の理由で中止となった方は6名であった。年2回効果測定を実施し、多くの方が維持・改善できており、事業に一定の効果があると考えている。その他、バスハイクや口腔ケア、消費者被害の講座、認知症サポーター養成講座を実施した。 いきいきサロンや老人会等から11回の講師依頼があり、延べ163名に介護予防に関する講話を行うなど、地域に介護予防の取り組みを提供することができた。
b. 認知症サポーターが継続的に認知症を理解したり、地域で見守る応援者としてできることを考える機会が持てるように頸北・名立キャラバンメイト連合会と連携を図ります。	頸北名立地区地域包括でキャラバン・メイトが認知症サポーター養成講座を開催できるようにフォローアップ研修を開催した。3月に大潟区の介護予防教室3クラスで実施し、延べ95名の参加があった。 引き続き、認知症に関する理解を深め、対応力の向上を図ることを目的に頸北名立地区キャラバンメイト連合会と連携して取り組んでいく予定である。
c. 認知症の方やその家族にとって自分らしさを発揮できる場所であったり、地域住民に認知症に対する正しい理解を深められるような「認知症カフェ」を実施します。	毎月第4金曜日の13時から16時で年12回開催。延272名が参加。毎回1時間程度の認知症の支援や予防に関するミニ講座を開催し、参加者も楽しみにしている。新潟青陵大学や上越市社会福祉協議会からの見学があり、取り組みの意見交換をしている。また、大潟区のガス水道フェアで出張カフェを開催し、大潟ふくしまつりに出展するなど、多くの地域住民に活動のPRを行った。年2回運営委員会を開催し、活動内容を振り返るとともに多様な意見を参考に運営に活かしている。
d. 介護者が介護等に関する知識や情報を得たり、情報交換を通じて介護の悩みが相談できる場となるような「介護者のつどい」を実施します。	毎月1回(8月を除く)、年11回開催。延108名が参加。介護の相談や情報交換だけではなく、サンクス高田などの施設見学や区保健師や管理栄養士による健康講座、地域の事業所による介護者教室を企画し、参加者からは好評をいただいた。

1-2-2) 居宅介護支援事業所

部門目標：利用者と家族の安心した生活を総合的に支援し、最善の利益を追求する。	
重点目標	実施状況・期末評価
①個別研修計画を各自が実施し、具現化することで質の向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に設定した研修目標を意識しながら研修に参加し、知識を広げ、深め、実践につなげられたところがあった。今後も継続した取り組みを重ねていく。 ・可能な限り研修に参加し、そこで学んだことをアセスメント時やケアプラン作成時に取り入れるように心がけた。
②利用者一人ひとりの強み（プラス面）を伸ばし、活かすことにより、その方の自立を支援していきます。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者や家族の強みを把握し、利用者の可能性の部分を支援するよう努力できた。しかし、うまくいかなかった面もあり、継続した課題となる。 ・利用者の日課や楽しみ、特技等をケアプランに盛り込むようにし、継続を働きかけながら生活に張りがあるよう支援した。
③どの場面でも利用者の立場になって物事を考え、その方に何が必要かを導き出し、個別の支援、サービス提供を実施していきます。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の視点でケアマネジメントを行うことができたが、関係機関との調整の中ではうまくいかなかった部分もあり、継続した課題となる。 ・利用者自身からの気持ちと家族の気持ちを聞き、お互いに考えをすり合わせ、どう生活したいかを一緒に考えるようにしているが、自分の価値観で話をしてしまったり、伝え方がうまくできず反省することも多々あり、気をつけていきたい。

1-2-3) デイサービスセンター

部門目標：地域で暮らす高齢者の皆様が行ってみたいと思っただけのデイサービスを目指します。	
重点目標	実施状況・期末評価
①お試し利用を積極的に受入れ、ご利用者が利用してみたいと思えるような暖かいサービスの提供に努めます。	新規依頼にはお試し利用を提案し、曜日を変えて利用していただき、ご希望する曜日に利用できるように配慮した。お試し利用時には職員が皆声をかけてサービス内容の説明をしたり、楽しいと思っただけのように心がけた。
②新たな活動を増やし、楽しみの持てる余暇活動の充実を図ります。	新たな活動として、月に1回のパン作り（感染症時期は休み）、男性ご利用者が参加できる木工活動、外出行事のいちご狩り、うみまちフリーマーケット、手作りのレクの物品、選択レクの内容等各担当者が企画し、ご利用者様から好評をいただいております。余暇活動の充実に取り組むことができた。
③ご利用者様、ご家族様の意向を確認し、個々に合わせた支援を行います。	担当者会議に出席し、ご利用者様、ご家族様の意向を確認し個々に合わせた支援を提供できるように取り組んだ。時にはご利用者様、ご家族様により良い支援が提供できるようにこちらからケアマネージャーに支援方法を提案したりすることもあった。
④職員がストレスを抱えないような職場環境を目指します。	平成27年度は主任と職員個別との話し合いを行えたが今年度は出来なかった。年休が取りやすいような環境作りが心がけ休日を取ることで心身共に疲れを取ることができるよう今後も続けていきたい。
⑤利用定員増員に伴い、新規依頼には迅速に対応し早期利用につなげ、通所介護及び総合事業の現行相当サービス	今年度の延べ利用者人数の月平均は623名であった。目標に近づくことができたと思う。お試し利用を積極的に受入れ年間新規利用者数は12名であり、その他半日型デイから1日型デイへ移行された方が3名だった。来年

(みなし)の毎月の利用延べ人数624人を目指します。(毎日の利用者数24名以上)	度もさらに利用者数が増えるように取り組みたい。
⑥半日型デイサービス(主に総合事業の通所型サービスAの対象者)の年間17人の新規利用者の受入れを目指します。	今年度の年間新規利用者数は12名だった。こまめに事業者へ営業に行った成果だと思うが、まだ月曜日から金曜日までの稼働で土曜日の利用者がいない状況である。また、火・水・木曜日は利用者数が少ないため、来年度は更に新規利用者獲得に向けて取り組みたい。
⑦在宅支援課各部門や関係機関と連携を図り、情報を共有し、在宅生活が続けられるように支援いたします。	ご利用者様の状態の変化等担当のケアマネや包括に連絡・相談しより良い在宅生活が送れるように情報を共有した。 また、月に1回の在宅支援課会議でも情報を交換し連携を図ることができたと思う。

1-3)高齢介護課 特別養護老人ホームしおさいの里

部門目標：利用者、職員共に笑顔で、心や思いに寄り添ったサービスの充実を目指します。

重点目標	実施状況・期末評価
①利用者の基本的人権を尊重し、安心・安全な生活が継続でき、その人らしく生活できることを大切にしながら支援します。	「その人らしく生活できる」ことに近づくよう、利用者の希望を伺ったり、職員からも提供したりしてその方に適して生活を送っていただけるよう援助している。利用者目線になり話を傾聴し、他職種と相談しながら対応できている。日々の利用者とのコミュニケーションや支援の中で思いを汲み取りケース記録に残したり会議等でどのようにしたら良いか話し合い情報共有を図り、協力して支援に当たれるよう心がけている。その人らしい最後の時、また体調不良発症時の対応のため、意向確認書を作成し活用している。機能的な可能性や危険性を予測しながら援助に努めている。安全面に置いて居室等の環境整備を行い意識して対応している。利用者が楽しめる企画を立て実施できている。 (評価)：平成29年度からは、認知症ケア向上の取組みも本格化することに合わせて、利用者の生活がより良いものとなるよう努めていく。苦情の発生もあり、今後起きないため言葉つかいや介助方法等見直し、対応に努める。発熱や風邪症状等が流行し居室内隔離で閉鎖的な空間になった際(感染症予防のため)、利用者の精神面に配慮した対応が必要だったと感じた。発症していない同室者には不便をかけた。
②専門職としての自覚を持ち、個々の役割と責任を認識しながら、職員間のコミュニケーションを大切に、風通しの良い、働きやすい職場環境を目指します。	日々の業務の中、各々委員会活動、係活動において責任を持ち役割を果たしている。その時々でコミュニケーションは取れているが怠った際に事故が発生したケースもあった。私語も時々あるが、それを通じてコミュニケーションが図れている。業務内の課題は日々の申し送り等で話し合い見直しも行っている。部署内体制の見直しについても意見を出し合い、他職種とも共有し取り組んでいる。課題や問題等起きた場合、その場で共有し検討したり会議等で話し合い対処できている。他職種の業務も手伝わざるを得ない状況であった。

	<p>(評価)：個々の役割と責任を果たしていくと同時にコミュニケーションをとり全員で取り組む姿勢も作り上げていく。職員間での言葉づかい等で配慮に欠けコミュニケーションがうまく取れない事もあったが、職員同士思いやりの気持ちを持ち働きやすい環境に引き続き取り組む。人任せにせず専門的な知識を生かし各々が責任を持ち取り組む姿勢を構築していく。仕事がストレスにならないよう部署内環境作りも継続していく。専門職としての自覚や体制作り、今後の課題・改善案を検討し意識を持って取り組んでいく。</p>
<p>③地域に暮らす高齢者の活動の場としてボランティア活動を積極的に受け入れます。ボランティアコーディネーターと連携しながら利用者と社会との結びつきの輪を広げていきます。</p>	<p>リネン交換や舞踊・クラブ活動等様々なボランティアの受け入れをしている。クラブ活動には利用者が積極的に参加され、充実した時間を過ごしていただいている。ボランティアの方と一緒に活動することで生き生きとした利用者の姿が増えてきている。利用者の可能性を広げることができている。おやつ作りは利用者を楽しんでいただき、チクチク倶楽部は継続的に実施できている。</p> <p>(評価)：ボランティア活動を通し、地域の方との繋がり、利用者の活動の幅が広がりや喜びや精神面の安定にも繋がっている。相談職が中心となっているが、今後は各部署の介護職員と連携し活動していけるよう体制を整えていく。</p>
<p>④一人ひとりが自身の資質向上のため、研修参加や自己研鑽に努めます。</p>	<p>できる限り参加し、資質向上に努めたと言う意見は少数である。積極的な研修案内をしなかったため、施設内・外の研修参加率を上げることに繋がらなかった。また自主的な研修参加や研修参加意欲が殆ど無かった。勤務状況等で参加機会が少ない。</p> <p>(評価)：参加職種、職員に偏りがあり、参加率を上げるための対策を考える必要がある。研修案内は施設内・外研修共に各部署に配布してあるが、勤務体制(会議やカンファレンス・急な欠員での残業等)の都合上偏りが出てしまう。課題を抽出し少しでも多くの職員が参加できるよう取り組んでいく。</p>

1-3-1)しおさいの里 2丁目

<p>部門目標：利用者に寄り添った温かみのある支援を目指します。</p>	
<p>重点目標</p>	<p>実施状況・期末評価</p>
<p>①職員同士思いやりを持ちながら協力し合い、働きやすい職場環境を作ると共に、利用者個々の支援に繋げていきます。</p>	<p>大きな行事の無い月は、部署内での各月誕生会やクラブ活動の実施にて楽しんでいただいている。利用者の個々の支援もできる限り応えるよう努めている。利用者体調不良による隔離対応が多く同室者にも不便をかけることもあった。職員体制による残業依頼は継続的に発生している。</p> <p>(評価)：職員間で話をしながらその時、その状況に合わせ、限られた人員の中柔軟な対応ができた。</p> <p>残業依頼は改善に至らなかったが、他部署への協力依頼回数は減らすことができている。しかし、他部署と必要な時間帯が重なっており、調整が難しいことが多い。職員の増員を望む声も多く、そのことによって利用者個々の支援、ゆとりを持った支援の幅が広がる可能性に繋げることができると感じる。平成29年度は認知症ケア向上の取組みやクラブ活動、テラスの活用等、利用</p>

	者の生活がより良いものになることを目指していく。
②自分が言われて嫌な言葉、自分がされたら嫌なこと等相手の立場になって考え、不適切なケアとなっていないかを振り返り、職員同士声を掛け合いながら支援していきます。	ゆとりを持って支援ができている時は言葉の掛け方・表現・対応は良いものができている。利用者の体調不良時や職員の急な欠員時等ゆとりが無い際に焦りや雑さ等不適切に繋がる要素が出てしまうことがある。 (評価)：ゆとりが無いからこそ職員同士声掛け合い、支援を振り返り適切な対応を心がけるよう継続して努めていく。

1-3-2)しおさいの里 3丁目

部門目標：利用者が自分らしく生活を送れるよう、サービス提供をします。

重点目標	実施状況・期末評価
①利用者が自分らしく笑顔で生活を送れるよう、人権を無視した行為は絶対に行いません。	利用者より人権について苦情2件あり。話を傾聴し他職種と対応した。その後同様の訴えなく会話や働きかけを通し笑顔も引き出せている。 (評価)：職員間で細かな目配りや気付き等情報共有を大切にするよう継続して努めていく。
②職員同士連携をしっかりと取り、専門職としての知識を生かし、利用者の思いに添い、且つ安全で安心できるサービスを提供します。	職員間の情報共有、意見の出し合いに努めた。 (評価)：事故・ヒヤリハットの発生の減少に繋がっている。今後も継続し、安心・安全なサービス提供に努めていく。
③職員間や利用者との1日の始まりの挨拶を初めとし、コミュニケーションを大切に互いの信頼関係を築き、相談しやすい環境を整えることができるようにします。	挨拶は実施できている。職員間の私語は多少あるも、コミュニケーションの一環として増大しないようには努めている。 (評価)：コミュニケーションを通して相談や意見を言いやすいよう環境作りは継続していく。 一年間通し、目標全て達成とまではいかないも、職員間、他職種間の連携をより密にとり利用者が安全・安心し笑顔で生活できるよう今後もサービス提供に努めていく。委員会活動も昨年より活動の場を広げ過ごしやすい環境作りに努めた。

1-3-3)しおさいの里 6丁目

部門目標：利用者に寄り添い、笑顔あふれる満足のいく生活を送れるよう一人ひとりをしっかりと見つめ支援します。

重点目標	実施状況・期末評価
①利用者とのコミュニケーションや日々の支援の中で汲み取ったニーズを6丁目職員全員で責任を持って対応します。	日々の利用者とのコミュニケーションや支援の中で汲み取ったニーズや思いをケース記録に残し、情報共有に努めた。 (評価)：利用者ニーズを汲み取っても実際の支援の中で不足することもあったが、12月後半より職員増員したことにより、改善も見られた。指導において各々教え合い情報共有することに努めた。
②利用者に対して、人権侵害になるような行為は絶対に行わず、笑顔と温かい気持ちを持って誠意ある対応に努めます。	人権意識向上委員が中心となり毎月の目標を掲示し取り組んだ。 (評価)：職員数が少ない時や業務に追われている際は利用者の気持ちに気付けないこともあったが、利用者の人権と尊厳を常に意識し今後も忘れず継続していく。

<p>③6・7丁目ユニット間のコミュニケーション・情報共有を円滑にし、利用者にとっても職員にとってもプラスとなる業務体制を確立します。</p>	<p>入浴時間等7丁目と協力体制を取っているが、受診や急な欠員等で調整が取れなくなることも多かった。利用者にとって不利益になることが無いよう他職種間での連携にも努めた。</p> <p>(評価)：7丁目との協力体制で不足が生じたこともあったが、職員の増員等で解消できた部分もあった。今後も協力体制を継続し利用者支援に不足が出ないよう努めていく。</p>
---	---

1-3-4)しおさいの里 7丁目

<p>部門目標：一人ひとりの活動がその人らしく、笑顔と活気があふれる生活を送れるよう支援します。</p>	
重点目標	実施状況・期末評価
<p>①ゆっくりゆったりとした生活を送れるよう支援します。</p>	<p>職員欠員の際やや利用者との関わりが持てない事が見られた。利用者ペースに合わせ生活を送っていただくことができた。</p> <p>(評価)：個々の支援は利用者の思いに添って実施できるよう努めた。おおむね達成できた。</p>
<p>②人権侵害・不適切な行為は絶対に行わず、誠意を持って対応します。</p>	<p>利用者の話をしっかり傾聴し、意向に添って対応することができた。</p> <p>その反面、忙しいという思いで業務優先になりがちであった。トイレの前で待たせてしまうこともあった。</p> <p>(評価)：人権意識向上委員が中心となり、目標に沿って支援が実施されるよう、意識付けは今後も継続する。忙しさもあるが、しっかり利用者の気持ちを考え行動するよう努める。</p>
<p>③職場内の環境の整備に努め、特に衛生面に置いては十分注意をはらい快適な生活を送れるよう対応します。</p>	<p>環境整備に努めていたが、3月は体調不良者が多く居室対応が2週間に渡り続いた。感染症の発症は出なかった。</p> <p>(評価)：衛生面には引き続き注意を払い、職員、利用者共に手洗い(手拭き)や個人用のカップ等清潔を保てるよう努める。</p>
<p>④職員間の連携・コミュニケーションを密にし、効率的な業務体制を目指します。</p>	<p>職員の連携は人権意識向上目標に掲げ、意識し努めた。忙しい業務の中でチームとして責任を持ち実施していた。</p> <p>(評価)：忙しいと言う意識があると業務優先に気持ちがいつてしまいがちだがそこに気持ちが取られないよう意識改革は継続していく。</p>

1-3-5)しおさいの里 5丁目

<p>部門目標：新規の方が何度も利用していただける、心のこもったサービスの提供に努めます。</p>	
重点目標	実施状況・期末評価
<p>①利用者の好みを把握し、利用者や家族の意向を汲み取り、気持ちに寄り添った対応を心がけ、安心して利用できるよう努めます。</p>	<p>利用者一人ひとりの気持ちに寄り添った対応を常に心がけ、介助に当たることができた。利用者の好みを把握し、支援に繋げることができている。</p> <p>(評価)：利用者の好みについて更に今以上に取り組み、個々の支援に繋げるよう努めていく。</p>
<p>②不適切ケアに繋がらないような取り組みとして、不適切ケアと思われる項目を毎月2項目提示し、意識しながら</p>	<p>毎月2つの目標を意識しながら介助に当たるよう努めた。月の目標については人権意識向上委員が中心となり決定し、職員間に周知し、徹底できるよう職員の目に付きやすい所に掲示している。</p>

行わないように努めます。	(評価)：2つの目標については毎月評価を実施し、意識付けを行うことができています。
③医療度の高い利用者の方等、積極的に受け入れることに努め、地域へ広報「しおさい」の回覧や他事業所への情報提供を行い、利用率アップに繋げ、毎月の利用者延べ人数 310 人を目指します。(1日の利用人数は 10 人以上)	医療度の高い方でもお断りせずご利用に繋がるよう他職種で話し合いを行っている。体調不良で緊急退所された方も何名かいたが、体調改善後にご利用に繋げている。他事業所へはキャンセルがあった際都度連絡を入れ、利用していただけるよう努めた。 (評価)：1月から3月は冬期間(越冬)のため普段より長めの利用の方が多かった。本入所空きベッドの利用等も含め、年間通し延べ人数 310 人を上回ることができた。

1-3-6)看護

部門目標：ご家族職員共に、利用者の気持ちに寄り添った支援を行えるように努めます。	
重点目標	実施状況・期末評価
①利用者やご家族の気持ちを汲み取ってケアが行えるようにします。 ・意向確認ファイルの活用継続。 ・健康状態把握に努める。(受診表・病歴表の活用継続) ・入所時の健康状態把握・意向確認について検討していく。 ・本人の意向確認について検討していく。	・しおさいの里における医療及び看護体制 ・急変時の意向確認票 ・看取りの意向確認票 上記を作成し、平成 29 年 1 月の新入所利用者から開始した。説明は生活相談員が実施している。 (評価)：活用状況については今後評価していく。本人への意向確認は今後の課題としていく。
②看取りケアの充実に努めます。 ・最期に過ごす居室環境、ベッド周辺をその方らしく落ちついた空間の提供に努める。	看取りケア中の環境整備は各部署職員、ケアマネジャー、生活相談員と共に取り組んでいる。箆笥周りの整理整頓・清掃・音楽等を準備したり、写真等利用者個人の愛用の物を飾ったりしている。 (評価)：落ち着いた居室環境に努めたが、その方らしさを出すまでには至らなかった。担当介護士が今後は中心にすすめていく体制としていく。 平成 28 年度退所者 33 名中、看取り 12 名。(2 月退所者 5 名うち 2 名看取り)
③相手の気持ちに寄り添い、精神的に傷つけないように努めます。 ・言葉使いに気を付け、職員とコミュニケーションを良好に保てるよう心がける。	職員間コミュニケーションを良好に保てるよう各自心がけてきた。 (評価)：業務連携をスムーズにし、皆で気持ち良く仕事が行えるよう今後も心がけていく。コミュニケーションが良好に保てない際は、何故そうなったのか原因を考え、対策を職員で考え上司にも相談しながら解決していくよう努める。

1-3-7)機能訓練

部門目標：業務の効率化や他職種との連携を図って、利用者様への援助を行って行きます。	
重点目標	実施状況・期末評価
①専門職としての視点から、利用者様の能力や可能性を念頭に置いた支援に	常に目標を意識しながら実施することができた。概ね達成できた。 (評価)：計画の変更もやむを得ない場合もあったが、利用者の体調が回復し

努めます。	た際は可能性を見出し情報発信や援助に繋げるよう努めた。
②地域貢献活動にも業務の幅を広げて行きます。	毎週水曜日のだんだん広場において体操や転倒予防のカリキュラムを考え取り組んできた。概ね達成できた。 (評価)：参加者のニーズや能力等も加味しながら実施できた。

1-3-8)相談支援

部門目標： 地域に開かれた施設を目指します。	
重点目標	実施状況・期末評価
①ボランティア活動を積極的に受け入れて、利用者・地域の方々・職員との繋がりが持てる様にします。	おやつ作りやクラブ活動を実施してきた。活動を通し、利用者とボランティアの方との繋がりを広めてきた。 (評価)：利用者とボランティアの方共に喜ばれていた。参加希望をされる利用者も徐々に増えているため、継続して実施していく。畑クラブも3月から発足し、更なる繋がり、関係性を深めていく。
②職員間のコミュニケーションを大切に、他職種連携の基、情報共有を図りながら支援します。	意識して情報を伝えるが、相手から返ってこないことがある。情報発信、情報共有等他職種間でできるよう努めてきた。 (評価)：お互い意識を持って今後も取り組んでいく。事故等起こった場合、相談支援室まで情報が回ってこないことがある(受診を必要としない場合等)。ご家族への報告等あるため情報を伝えてもらうよう今後も声かけをしていく。

1-4)障害支援課 さいはま園

部門目標： 地域で暮らす障害者を支える施設を目指します。	
重点目標	実施状況・期末評価
①利用者の「自分でできる」という思いを大切に自立支援と、「なりたい自分」を目指す自己実現を支援し、QOLの向上を目指します。	ケアプラン作成時に利用者の意向を伺い、利用者の想いを反映させている。また、自身が想いを伝えられない場合でも、利用者の性格や状態を推し量り、ご家族様と協議をしながら利用者の自己実現を目指した。
②重度の障害がある方の生活の場として、施設入所を希望する声があることから、行政や相談支援事業所と連携を図り、受け入れ体制を整えます。	新規入所者については、行政や相談支援事業所と連携を取り、利用者やご家族様が安心して利用できるよう努め、意向については、ケアプランに反映させた。医療面が必要な利用者には、可能な範囲で対応できるよう努めている。
③地域の暮らしを支える短期入所は、円滑な受け入れ体制を整備し、緊急時や避難的な利用など、個々の環境に応える施設を目指します。	医療面を要する方は、看護体制を整え対応した。また、福祉避難所指定にもなり、今後は、その場面で受け入れる方々についても今後の定期利用につなげたい。
④全国身体障害者施設協議会(新潟県身体障害者施設協議会)の一員として、障害者福祉に貢献し、介護知識や技術	今年度の大会出場は果たせなかったが、実践報告で提出した内容は、同様事例もあり、他施設にも劣らないと確信できるものであった。今後、個々のスキルアップや、園内のレベル向上にもつなげていく。

の向上に努めます。	
⑤夕映えの郷との連携により、法人内の障害部門の強化を図ります。また、地域の多種多様な障害者の実情を把握し、障害支援の専門性を生かした体制を構築します。	夕映えの郷との連携により、利用者間の交流をはじめ、双方の施設の良さや力も共有できた1年であった。今後もそれぞれの障害特性を生かした支援につなげ、上越頸城福祉会ならではのさらなる交流を深めていく。
⑥ノーリフトによる移乗支援用具の導入や記録のPC化など、効率のよい業務で、職員が働きやすい職場環境を確立します。	ノーリフトは昨年より推進してきたが、現在は大きな進展なく現状維持となっている。今後は、さらに支援用具で負担の少ない支援を目指す。記録のPC化はほぼ全面移行し、着々と利便性をあげている。

1-4-1)障害者支援施設(生活介護・施設入所支援)

部門目標：利用者のQOL向上と、自己実現を支援します。

重点目標	実施状況・期末評価
①利用者の「選択・決定」を尊重し、「できる力」を引き出した個別支援を行います。	プラン作成時の面談を含め、必要時には、場面に沿った専門職が立ち合い、さまざまな提案と個々の支援に努めている。
②従来の障害に加え、新たな疾病発症や重症化による長期入院（3週間以上）が増加しています。入院は精神的にも経済的にも負担が大きいため、入院しないで済むように、医療機関と連携し、さらなる健康管理に努めます。	入院については、後期で大幅に入院者が増加。一定期間に2～3名が入院するなど、いまだかつてない状況にもなった。また、罹患では肺炎が倍増し、重度、高齢化によるものがみられる。さらには今年度2名の退所（病院にて死亡）もあり、全体的な重症化のため、さらなる健康管理を要する。 平成27年度 184日間（入退院日含む） 最長入院数 41日間 平成28年度 263日間 // 79日間
③利用者の要望や苦情、相談ごとに真摯に向き合い、人権意識向上委員会の3原則を遵守し人権を尊重します。	今年度の苦情はゼロ。プラン作成時の利用者との意見交換により、苦情までに至らないうちに解決できたものもあると考えている。また、人権委員会の活動をとおし、職員間の意見交換も行われ、日ごろから権利擁護を考える場面を増やしている。
④夕映えの郷と合同行事を企画し、利用者間の交流を通して、個々の生活の幅や可能性を広げる支援を行います。	夕映えとの合同行事により、利用者の可能性を見ることができた。職員が思っているよりも「できること」や「交流する力」があることは大きな発見であった。
⑤職員の資質向上では、施設内外の研修による職務活性化や、全国身体障害者施設協議会主催の全国大会実践報告でスキルアップを目指します。	さまざまな施設外研修（協議会関連など）への参加をすることができたが、勤務状況により特に施設内研修への参加は減少気味であった。施設内研修出席は事前に勤務調整も行っているため、次年度へも事前に体制を整え、参加を促していく。
⑥職員同士が相談しやすい環境で「協議（目的を合わせる）・協力（力を合わせる）・協調（心を合わせる）」の働きやすい職場を作ります。	職員が気軽に集まって話し合えるような時間も推奨し、会議を待たずにスピーディに決定し、業務が滞ることのないようにしている。今後も報連相を徹底し、体制を継続する。

1-4-2)短期入所(ショートステイ)

部門目標：地域で暮らす利用者のニーズに応える施設を目指します	
重点目標	実施状況・期末評価
①緊急時でも、情報の多寡や時間にとらわれず、円滑な受け入れ対応を目指します。	今年度は、緊急的な受け入れが2件、新規利用者が2件あり。緊急的な受け入れは、利用者の環境が改善し、利用終了となった。新規利用者については、打診はあるも施設見学までに至らないケースもあり、相談支援事業所等にも働きかけていく。
②障害支援区分に伴う介助を予想し、「介護職員による医療行為」体制を整備します。	医療行為を必要とする利用者1名あり。痰吸引のみならず、看護体制を要するため、引き続き両面からの体制を構築していく。
③集団生活の施設でも、可能な限り在宅スタイルを反映した支援に近づくよう努めます。	可能な範囲で、自宅での生活スタイルを取り入れ、集団生活の中でも反映するようにしている。短期入所者についても、介護支援書作成で過ごし方や支援方法を提示し、同意をえている。
④昼夜を区切らず1日を通したサービス利用となるような日中活動を実施します。	定期利用者の中には、日中は他事業所(デイサービス)を利用される方があるが、利用者の希望する形態に合わせた利用ができるように支援していく。
⑤レスパイト機能だけでなく、将来の施設生活に安心感が持てるよう、入所待機の間としても機能し、利用率80%以上を目指します。	将来の施設入所を見据えた利用者の方は、継続的に利用して頂き、本人様とご家族様ともに安心して頂けるよう努めている。また、レスパイトとしても機能しており、利用者やご家族様のニーズに合わせた日程を組んでいるが、全体的な利用率は、緊急避難的な利用が終了したため、27年度の利用よりは低下している。 平成27年度 91.1% 平成28年度 76.8%
⑥夕映えの郷との連携により、地域の障害者を把握し、障害特有のニーズに応えられる「暮らしを支える施設」として制度の狭間を支援します。	夕映えの郷との連携会議により、お互いの情報交換は実施してきた。連携の中で、地域の埋もれた方の情報を交換する場面には至らなかったが、双方の利用者の理解は交流により進められたと感じている。今後も地域でのサービスを必要とされている方についての情報交換を継続していく。

1-5)管理課

部門目標：「安心」「安全」「喜び」を実感できるサービスと「経営向上」を目指します。	
重点目標	実施状況・期末評価
①施設をご利用される方々が、安心・安全・喜びを実感し生活ができるよう、各職種間と連携を取りながらサービスの向上に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・事務部門では介護現場と連携を取り、電話、来客等スムーズな窓口対応と備品の発注管理に努めた。 ・給食業務では、衛生管理を徹底し食中毒等の予防に努めた。職種間で連携をとり、ご利用者の要望や意見を取り入れた献立づくりに努めた。 ・宿直、保安業務では、夜間見回り等 安心と安全な生活ができるよう心がけ業務を行った。 ・清掃業務では職員、ご利用者家族の意見を聞きながら業務改善を行い清潔

	に努めた。
②安定的・発展的な事業経営ができるよう、業務の改善に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・事務部門では、増えた業務を行えるよう業務分担の見直しを行った。また、増えた業務に対応するための改善策と今後の課題を明らかにすることで問題点を洗い出し組織として情報共有を行った。 ・労務に関する業務においては、複数の職員が対応できるように業務改善を行ったことで円滑な対応ができるようになった。今後も引き続き業務の見直しを行い効率化に努める。
③法人組織間の連携を通して効率・効果的な経営を推進していきます。	<ul style="list-style-type: none"> ・会計・労務において、担当者の長期休暇等に対応できるような体制づくりを検討した。 ・会計月次監査の在り方等、会計に関することを夕映えの郷と協議し、より効果的な会計処理ができるよう、会計ソフトの入替等を検討し進めた。
④障害者雇用促進法に基づき、障害のある人も能力と適正に応じた働き方ができるよう努めるとともに、職員一人ひとりが生き生きと働けるよう職場の活性化に向けて、職員の健康と精神的健康の増進を図り活力ある組織づくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・職場のメンタルヘルス対策では、外部講師に上越保健所職員を招き福祉職員向けのメンタルヘルス研修を行いメンタルヘルス向上に努めた。又、研修会では 11 月に実施したストレスチェックについて事前研修を受けることで制度等一定の理解を得た。(参加者：98名) ・月次の衛生委員会では、職員の健康状況に関する報告等を行い、健康増進を行っている。その他、衛生担当者が外部研修等で得た、健康と精神的健康の増進に関する情報を、積極的に発信し職員の健康増進に努めた。 ・清掃部門において、仕事はチームで行う事を意識付け、障害により不自由な業務部分については、カバー、協力する体制づくりに努めた。 ・洗濯委託先（夕映えの郷）と連携をとり業務改善できるよう、介護現場と連携し、洗濯部門が働きやすい職場環境となるよう努めた。また、洗濯機器入替に伴う仕上りの不具合に対し、連携を図りながら迅速に対応した。 ・新潟県自殺予防対策推進宣言団体（いのちとこころの応援団）に加入登録し、情報収集の強化を図る等更なる職場のメンタルヘルス向上に努めることとした。 ・職場の安全管理として「交通事故防止運動」文書配布による啓発活動を行った。 ・労働災害再発防止に向けた取り組みとして、新たに毎月労災・事故発生状況を報告。また労働災害について衛生委員会で情報共有を行う等再発防止の取り組みを強化した。 ・職場環境のチェックを行い、各職域での労働環境を把握する等働きやすい職場づくりに努めた。 ・しおさいの里管理栄養士による食中毒復命研修を実施し感染症による職場の安全意識を高めた。

1-5-1)管理課 厨房

部門目標：「食べる喜び」を感じて頂き、おいしく安全な食事の提供に努めます。

重点目標	実施状況・期末評価
①他職種との連絡調整を密にし、工夫や	・毎週、新メニューを1つ以上入れる事ができた。

<p>配慮を加え、心のこもった食事提供に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニット毎に郷土食メニューを選択できるスタイルでご利用者の意見を反映できるスタイルで、郷土食メニューを開始した。 ・利用者の意見を反映できるよう、リクエスト食を開始することができた。 ・栄養士の他調理員の意見も献立に反映できるように、定期的に検討会を行うことにした。 ・イオンゼリーを各ユニットで作ることで、廃棄量を減らしコスト削減に努めるよう検討した。またご利用者に好まれる味の種類に変更をした。
<p>②嗜好性の高い食事（味、色彩、盛り付け、季節感）を心がけます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談職から要望が出ていた、太い麺の提供について給食委員会等で検討し提供に向けて取り組んだ。 ・利用者の要望を受けて、初めてクリスマスイブにイチゴのショートケーキを提供した。 ・昨年に続き、生寿司を提供することができた。
<p>③衛生管理を徹底し食中毒を予防します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食中毒をおこすことなく、安全な食事を提供することができた。 ・栄養士による食中毒外部研修参加復命研修会の実施「食中毒事故の予防・震災等非常時における食中毒の予防」について。 ・厨房内の定期的な検討会で、作り手である調理員の意見を聞くことで働きやすく、衛生的管理も徹底でき、食中毒予防等安全な食事提供に努めることができた。 ・年度末は調理員が1人欠員ではあったが、食中毒や事故、サービスの質を落とす事なく取り組むことができた。

1-5-2)管理課 事務

<p>部門目標： 業務改善と経費の見直し等を行い、経営向上に努めます。</p>	
<p>重点目標</p>	<p>実施状況・期末評価</p>
<p>①光熱水費、経費等のコスト削減に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消耗品等について、見積を取り直す等コスト削減に努めている。 ・光熱費の削減について新電力導入について検討し8月から導入を行った。節水システム機器の実績効果を検証し28年度も引き続き継続することとした。様々な相乗効果により、光熱水費は施設全体で前年比約300万程度削減できた。 ・消耗品や新規取扱商品等について、複数業者から見積を取り、コスト削減に努めている。
<p>②情報を共有し、円滑な外部対応を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他職種部門と情報を共有することで円滑な外部対応を行うよう努めた。
<p>③経理や労務管理において業務分担の見直しを図り、効率的に業務を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス向上の一環としてリコーリース集金代行サービスを導入し、利用者の利便性を高めた。 ・経理業務の一部について業務分担の見直しを行い、効率化を図った。 ・起票資料の作成や会計システムの機能活用により、経理業務を効率的に行えるよう改善した。 ・法人全体の会計機能を強化するために会計顧問契約、会計ソフトの見直し

	<p>を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小口現金の業務担当を変更し、施設全体での効率化を図った。 ・労務管理において、業務分担の見直しに伴う引き継ぎを行なった。 ・経理において、日常業務から決算業務までの起票担当を集約化し、施設全体での効率化を図った。
④よりよい職場環境となるよう心がけ、職員間で情報を共有し協調性を大切にします。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を共有し協調性を大切にするために、事務職員間で報告・連絡・相談を密に行うよう努めた。
⑥法人間で経理業務や経費削減を効率・効果的に行うよう努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・食材の仕入れ業者を見直し、コストを削減また安心安全な食材を仕入れるよう努めた。 ・うみまちフェスティバルやじよんのびカフェ等法人間の行事費について、連携を密にし、経理上の整合性と効率的な業務に留意した。

1-5-3)管理課 保安、宿直、清掃

部門目標：ご利用様が安心、安全、快適に施設を利用できるよう各職種間と連携を取りながら効率	
重点目標	実施状況・期末評価
①迅速な対応と作業の効率化を心がけます。	<ul style="list-style-type: none"> ・保全業務においては、修理等迅速な対応を心がけ安全を意識し業務の改善に心がけた。 ・清掃における要望については、都度迅速に業務改善を行い対応した ・保全業務において、車輛 修理・点検 連絡票、修理点検・連絡票の作成により、職域への伝達漏れを無くすよう努めた。
②安全、安心、清潔を心がけサービス向上に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・宿直、保安業務ではご利用者や職員が安心して生活、勤務できるよう各職種間と連携をとりながら迅速な対応に努めている。 ・宿日直時等の不審者対応について職域で再確認した。 ・床材のはがれ、壁紙の汚れの調査を実施。床材については保安員が修理を行うも、汚れた壁紙の張替については業務都合により次年度実施予定となる。 ・さいはま園から居室、廊下の定期的な水モップの要望があり、清掃勤務を組み換え体制変更後対応した。 ・電動ベッドコード断線による漏電防止のため全部署で点検を行い、保安員が状況の確認、修理等を実施した。 ・清潔の観点からカーテンの洗濯や買換について調査を実施。買換は今年度全て行い、洗濯については夕映えの郷に委託業務として依頼することにした。

平成28年度事業別利用実績

1. 高齢福祉部門

<介護老人福祉施設:特別養護老人ホームしおさいの里>

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		延人数	要介護1	90	93	60	93	93	90	93	90	93	93	84
	要介護2	480	464	480	431	403	390	403	360	372	371	336	372	4,862
	要介護3	613	696	705	755	799	800	789	694	713	735	618	699	8,616
	要介護4	778	783	756	775	739	736	820	809	937	862	817	849	9,661
	要介護5	1,047	1,084	1,029	1,076	1,052	946	1,009	1,038	1,027	1,041	944	1,104	12,397
	合計	3,008	3,120	3,030	3,130	3,086	2,962	3,114	2,991	3,142	3,102	2,799	3,117	36,601
実人数	要介護1	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	35
	要介護2	16	15	16	14	13	13	13	12	12	12	12	12	160
	要介護3	21	23	24	25	27	27	26	26	23	24	23	23	292
	要介護4	26	26	27	25	25	25	27	29	31	29	30	28	328
	要介護5	37	36	36	36	37	34	35	35	34	34	36	38	428
	合計	103	103	105	103	105	102	104	105	103	102	104	104	1,243
運営日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
利用率(%)		96.4	96.8	97.1	97.1	95.7	94.9	96.6	95.9	97.5	96.2	96.1	96.7	96.4
平均要介護度		3.74	3.74	3.73	3.74	3.73	3.69	3.72	3.78	3.77	3.77	3.79	3.80	3.75

<通所介護・総合事業:デイサービスセンターゆりかご荘>

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
		延人数	チェックリスト	37	36	36	37	38	37	39	34	35	28	30	34
	要支援1	29	31	26	33	35	38	30	27	29	26	30	37	371	
	要支援2	24	28	31	44	42	34	41	39	41	24	26	35	409	
	要介護1	154	155	135	140	148	140	135	140	140	127	123	143	1,680	
	要介護2	192	190	218	206	218	246	234	220	254	259	244	248	2,729	
	要介護3	93	88	95	132	135	128	110	101	115	117	95	113	1,322	
	要介護4	77	80	91	93	80	81	92	75	75	70	70	81	965	
	要介護5	27	28	28	25	29	28	29	27	28	29	25	32	335	
	合計	633	636	660	710	725	732	710	663	717	680	643	723	8,232	
実人数	チェックリスト	6	6	6	6	7	7	6	6	6	4	5	5	70	
	要支援1	4	4	4	5	5	5	4	4	4	4	5	6	54	
	要支援2	3	4	4	6	5	4	5	5	5	3	5	5	54	
	要介護1	18	17	16	16	17	17	16	17	16	17	16	16	199	
	要介護2	16	17	18	16	17	20	21	21	21	21	24	23	24	238
	要介護3	9	10	10	12	12	12	10	13	13	13	13	13	12	139
	要介護4	9	9	10	12	8	9	11	8	8	8	8	8	8	108
	要介護5	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
合計		68	70	71	76	74	77	76	77	76	76	78	79	898	
運営日数		26	26	26	26	27	26	26	26	27	26	24	27	313	
平均利用数 (利用者数/ 運営日数)	チェックリスト	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.5	1.3	1.3	1.1	1.3	1.3	2.5	
	要支援	2.0	2.3	2.2	3.0	2.9	2.8	2.7	2.5	2.6	1.9	2.3	2.7	22.5	
	要介護	20.9	20.8	21.8	22.9	22.6	24.0	23.1	21.7	22.7	23.2	23.2	22.9	25.0	
	合計	22.9	23.1	24.0	25.9	25.4	26.7	25.8	24.2	25.3	25.1	25.5	25.5	71.1	
利用率(%)		65.8	66.1	68.6	73.8	72.6	76.1	73.8	68.9	71.8	70.7	72.4	72.4	2.09	
平均要介護度		2.05	2.04	2.12	2.11	2.08	2.09	2.11	2.06	2.07	2.14	2.08	2.09	2.23	

* 平均要介護度:要支援1=0.375、要支援2=1で計算

<(介護予防)短期入所生活介護:しおさいの里ショートステイ>

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		延人数	要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要支援2	3	18	14	11	3	0	0	2	0	0	0	0	51
	要介護1	70	61	68	60	63	64	61	53	64	58	64	57	743
	要介護2	36	41	35	41	50	52	61	66	59	56	43	53	593
	要介護3	102	137	106	110	123	146	142	134	147	153	121	134	1,555
	要介護4	55	49	40	51	46	53	76	75	74	70	70	88	747
	要介護5	25	43	33	32	29	27	27	25	20	24	23	21	329
	合計	291	349	296	305	314	342	367	355	364	361	321	353	4,018
実人数	要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要支援2	1	2	2	2	1	0	0	1	0	0	0	0	9
	要介護1	10	10	11	10	10	11	11	8	11	9	11	9	121
	要介護2	7	8	7	7	8	11	13	13	10	11	7	9	111
	要介護3	9	11	10	11	12	12	12	12	14	14	11	10	138
	要介護4	7	5	4	5	5	4	6	5	6	7	6	8	68
	要介護5	4	5	5	5	4	4	3	4	3	4	4	3	48
合計		38	41	39	40	40	42	45	43	44	45	39	39	495
運営日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
平均利用数 (利用者数/ 運営日数)	要支援	0.1	0.6	0.5	0.4	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
	要介護	9.6	10.7	9.4	9.5	10.0	11.4	11.8	11.8	11.7	11.6	11.5	11.4	10.9
	合計	9.7	11.3	9.9	9.8	10.1	11.4	11.8	11.8	11.7	11.6	11.5	11.4	11.0
利用率(%)		80.8	93.8	82.2	82.0	84.4	95.0	98.7	98.6	97.8	97.0	95.5	94.9	91.7
平均要介護度		2.74	2.82	2.69	2.78	2.75	2.79	2.86	2.86	2.80	2.85	2.83	2.90	2.81

* 平均要介護度:要支援1=0.375、要支援2=1で計算

<居宅介護支援:しおさいの里居宅介護支援事業所>

実人数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		チェックリスト	0	0	0	1	1	1	1	2	2	2	2	2
要支援1	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	3	3	41
要支援2	8	8	8	8	8	8	8	7	7	7	7	6	8	90
要介護1	28	26	26	26	29	26	26	28	28	32	35	32	31	347
要介護2	25	30	28	29	26	28	30	30	30	32	31	29	28	346
要介護3	14	16	16	17	20	19	18	17	19	19	21	19	21	217
要介護4	11	11	13	13	11	11	11	11	11	12	10	12	12	138
要介護5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
合計	93	98	98	101	102	101	104	103	112	114	107	109	109	1,242
平均要介護度		2.08	2.11	2.15	2.14	2.10	2.10	2.06	2.05	2.05	2.00	2.08	2.08	2.08

* 平均要介護度:要支援1=0.375、要支援2=1で計算

(前年度2.17)

<介護予防支援:地域包括支援センターうのはな苑>

実人数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		チェックリスト	27	29	28	27	26	26	23	24	21	20	21	20
要支援1	22	22	21	27	23	24	19	19	21	22	22	23	23	265
要支援2	34	34	35	35	35	36	39	37	35	34	37	35	35	426
合計	83	85	84	89	84	86	81	80	77	76	80	78	78	983
平均要介護度		0.51	0.50	0.51	0.51	0.52	0.52	0.57	0.55	0.56	0.56	0.57	0.56	0.53

* 平均要介護度:要支援1=0.375、要支援2=1で計算

(前年度0.61)

2. 障害支援部門

<障害者支援施設さいはま園:生活介護>

延人数	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分3	26	6	6	6	6	6	6	5	8	1	4	7	6	87
区分4	44	63	44	23	23	22	23	22	23	23	23	20	23	353
区分5	88	98	132	138	137	110	115	88	92	92	60	60	60	1,210
区分6	279	283	264	299	297	308	320	308	322	320	300	353	353	3,653
合計	437	450	446	466	463	446	463	426	438	439	387	442	442	5,303
実人数	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
区分4	2	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	16
区分5	4	5	6	6	6	5	5	4	4	4	3	3	3	55
区分6	13	13	12	13	13	14	14	14	14	15	17	16	16	168
合計	21	22	21	21	21	21	21	20	20	21	22	21	21	252
運営日数		22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	269
利用率(%)		99.3	97.8	101.4	101.3	100.7	101.4	100.7	96.8	95.2	95.4	96.8	96.1	98.6
平均障害程度区分		5.42	5.46	5.47	5.57	5.57	5.61	5.62	5.63	5.68	5.66	5.69	5.72	5.59

<障害者支援施設さいはま園:施設入所支援>

延人数	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		区分3以上	585	596	600	620	601	596	610	570	589	578	516	572
運営日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
利用率(%)		97.5	96.1	100.0	100.0	96.9	99.3	98.4	95.0	95.0	93.2	92.1	92.3	96.3

<障害者支援施設さいはま園:短期入所>

延人数	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分3	11	20	22	28	13	25	29	8	15	14	10	6	6	201
区分4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	0	9
区分5	5	5	5	5	3	5	5	6	5	6	6	6	6	62
区分6	28	27	26	22	25	23	28	31	24	22	21	12	12	289
区分1(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分2(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分3(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	44	52	53	55	41	53	62	45	44	43	45	24	24	561
実人数	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分3	2	3	2	3	2	2	2	1	1	1	1	1	1	21
区分4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
区分5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
区分6	4	4	4	5	4	4	5	4	4	3	3	2	2	48
区分1(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分2(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分3(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	7	8	7	9	7	7	8	7	6	7	6	4	4	83
運営日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
平均利用者数	障害者	1.5	1.7	1.8	1.8	1.3	1.8	2.0	1.5	1.4	1.4	1.6	0.8	1.5
(利用者数/運営日数)	障害児	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計		1.5	1.7	1.8	1.8	1.3	1.8	2.0	1.5	1.4	1.4	1.6	0.8	1.5
利用率(%)		73.3	83.9	88.3	88.7	66.1	88.3	100.0	75.0	71.0	69.4	80.4	38.7	76.8
平均障害程度区分		5.14	4.75	4.66	4.38	4.98	4.49	4.52	5.33	4.86	4.84	4.84	5.00	4.78

(障害児除く)

年度別利用率の推移(過去10年間)

1. 高齢部門

<介護老人福祉施設:特別養護老人ホームしおさいの里> 定員:104人

	平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度
運営日数(日)	366	365	365	365	366	365	365	365	366	365
延べ利用者数(人)	34,388	34,829	34,397	35,491	34,745	34,987	35,060	35,599	36,671	36,601
1日平均利用者数(人)	93.9	95.4	94.2	97.2	94.9	95.9	96.1	97.5	100.2	100.2
利用率(%)	93.9	95.4	94.2	97.2	94.9	95.9	96.1	97.5	97.6	96.4
平均要介護度	4	4.02	4.12	4.11	4.12	3.94	3.86	3.72	3.69	3.75

*平成27年8月1日より100人から104人に定員変更

<(介護予防)通所介護:デイサービスセンターゆりかご荘> 定員:37人

	平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度
運営日数(日)	313	313	313	313	314	311	313	313	314	313
延べ利用者数(人)	7,564	7,448	7,073	7,330	7,650	6,628	6,577	6,444	7,380	8,232
1日平均利用者数(人)	24.2	23.8	22.6	23.4	24.4	21.3	21	20.5	23.5	26.3
利用率(%)	80.5	79.3	75.3	78	81.2	71	70	68.6	78.3	71.1
平均要介護度	2.9	2.94	2.85	2.45	2.29	2.56	2.7	2.36	2.35	2.23
	-	-	-	2.2	2.13	2.42	2.54	2.14	2.11	2.09

*平成28年4月1日より30人から37人に定員変更

*平均要介護度:平成22年度より要支援(1・2)を含めた数値(下段)。

<(介護予防)短期入所生活介護:しおさいの里ショートステイ> 定員:12人

	平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度
運営日数(日)	366	365	365	365	366	365	365	365	366	365
延べ利用者数(人)	4,691	4,423	4,115	4,073	4,326	4,682	4,572	4,934	4,173	4,018
1日平均利用者数(人)	12.8	12.1	11.2	11.1	11.8	12.8	12.5	13.5	11.4	11
利用率(%)	91.4	86.6	80.5	79.6	84.4	91.6	89.5	84.5	85.6	91.7
平均要介護度	3.35	3.19	3.12	2.83	2.81	3.14	3.3	3.1	2.98	2.83
	-	-	-	2.81	2.8	3.12	3.28	3.08	2.93	2.81

*平成26年4月1日より14人から16人に定員変更

*平成27年8月1日より16人から12人に定員変更

*平均要介護度:平成22年度より要支援(1・2)を含めた数値(下段)。

2. 障害部門

<身体障害者療護施設さいはま園:入所> 定員:20人 *H23. 3. 31廃止

	平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度
運営日数(日)	366	365	365	365
延べ利用者数(人)	7,087	7,023	7,070	7,083
1日平均利用者数(人)	19.3	19.2	19.3	19.4
利用率(%)	96.5	96	96.5	97

<障害者支援施設さいはま園:生活介護> 定員:20人 *H23. 4. 1開始

	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度
運営日数(日)	270	269	269	269	270	269
延べ利用者数(人)	5,312	5,309	5,166	5,212	5,381	5,303
1日平均利用者数(人)	19.6	19.7	19.2	19.3	19.9	19.7
利用率(%)	98.4	98.7	96	96.9	99.6	98.6

<障害者支援施設さいはま園:施設入所支援> 定員:20人 *H23. 4. 1開始

	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度
運営日数(日)	366	365	365	365	366	365
延べ利用者数(人)	7,117	7,125	6,908	6,916	7,128	7,033
1日平均利用者数(人)	19.4	19.5	18.9	18.9	19.4	19.2
利用率(%)	97.2	97.6	94.6	94.7	97.4	96.3

<短期入所:さいはま園ショートステイ> 定員:2人

	平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度
運営日数(日)	366	365	365	365	366	365	365	365	366	365
延べ利用者数(人)	478	635	540	603	615	428	500	643	667	561
1日平均利用者数(人)	1.3	1.7	1.5	1.6	1.6	1.1	1.4	1.7	1.8	1.5
利用率(%)	65.3	86.9	67.5	82.6	84	58.6	68.5	88.1	91.1	76.8

入所利用者の状況(平成29年3月31日現在)

1. 特別養護老人ホーム

しおさいの里(定員:104人)

(1)年齢構成

年齢	男性	女性	男女計
～59	1	1	2
60～64	1	0	1
65～69	5	2	7
70～74	1	4	5
75～79	8	15	23
80～84	7	11	18
85～89	6	17	23
90～94	2	16	18
95～	0	7	7
合計	31	73	104
平均年齢	78.5	84.3	82.8
最年長	90	100	100
最年少	52	58	52

(2)要介護度

	男性	女性	男女計
要介護1	1	2	3
要介護2	1	11	12
要介護3	11	12	23
要介護4	9	19	28
要介護5	9	29	38
合計	31	73	104

*平均要介護度:(3.82)

(3)保険者

上越市	(大潟区)	22	102
	(柿崎区)	22	
	(頸城区)	13	
	(吉川区)	7	
	(上記以外)	38	
上越市以外の市町村		2	
合計		104	

2. 障害者支援施設

さいはま園(定員:20人)

(1)年齢構成

年齢	男性	女性	男女計
～39	1	0	1
40～49	2	1	3
50～59	3	2	5
60～69	6	3	9
70～	2	0	2
合計	15	5	20
平均年齢	58.4	57.8	58.2
最年長	82	67	82
最年少	26	44	26

(2)障害程度区分

	男性	女性	男女計
区分1	0	0	0
区分2	0	0	0
区分3	0	0	0
区分4	1	0	1
区分5	3	0	3
区分6	10	6	16
合計	14	6	20

*平均障害支援区分:(5.75)

(3)保険者

上越市	(大潟区)	6	18
	(柿崎区)	2	
	(頸城区)	1	
	(吉川区)	2	
	(上記以外)	7	
上越市以外の市町村		2	
合計		20	

3. 医療の状況

(1)入院の状況

しおさいの里	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度
延べ入院者数(人)	31	32	35	23	27	23	41
総入院日数(日)	794	670	767	730	604	546	955
平均入院日数(日)	26	20.9	21.9	31.7	22.3	23.7	23.2

さいはま園	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度
延べ入院者数(人)	5	12	9	17	21	8	11
総入院日数(日)	182	226	187	408	409	184	269
平均入院日数(日)	36	18	20	24	19.4	23	24.4

(2)経管栄養管理が必要な利用者数の推移(しおさいの里・さいはま園)

H21.3.31 現在	H22.3.31 現在	H23.3.31 現在	H24.3.31 現在	H25.3.31 現在	H26.3.31 現在	H27.3.31 現在	H29.3.31 現在	H28.3.31 現在
18	27	26	22	21	18	14	11	14

(3)痰の吸引が必要な利用者数の推移(しおさいの里・さいはま園)

H27.3.31 現在	H28.3.31 現在	H29.3.31 現在
28	31	14

4. 事故報告等

4-1. 事故報告の状況(報告先:高齢部門・各保険者、障害部門・新潟県)

28年度	特養入所	短期入所	通所介護	障害支援	合計
骨折	2	1			3
誤薬・誤飲	1			2	3
その他	1				1
計	4	1	0	2	7

前年度	特養入所	短期入所	通所介護	障害支援	合計
	8			1	9
				1	1
					0
	8	0	0	2	10

4-2. 感染症等発生報告

インフルエンザ	利用者	1
	職員	7
感染性胃腸炎	利用者	0
	職員	6

前年度	利用者	1
	職員	5
	利用者	14
	職員	3

5. 退所者の推移

しおさいの里	~平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	累計
施設内で逝去(看取り)	82	19	5	9	5	24	15	12	14	14	10	209
医療機関で逝去	36	8	4	5	1	3	5	5	5	1	13	86
自宅復帰又は自宅で看取り	2	1							1	1		5
医療機関等へ転院(長期入院等)	6	2	1	4			1	2	1	1		18
合計	126	30	10	18	6	27	21	19	21	17	23	318

さいはま園	~平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	累計
施設内で逝去(看取り)			1									1
医療機関で逝去	4							1	1		2	8
自宅復帰(地域移行)	2											2
医療機関等へ転院(長期入院等)				2			1	1	1			5
合計	6	0	1	2	0	0	1	2	2	0	2	16

6. 入所待機者の状況(過去10年間)

(しおさいの里)

	上越市					他市町村	合計
	大潟区	柿崎区	頸城区	吉川区	左記以外		
H20.3.31現在	87	74	32	43	117		353
H21.3.31現在	100	95	39	47	140		421
H22.3.31現在	84	98	41	53	157		433
H23.3.31現在	89	98	49	51	168	10	465
H24.3.31現在	82	84	56	63	172	10	467
H25.3.31現在	93	94	69	81	205	17	559
H26.3.31現在	95	92	67	88	188	17	547
H27.3.31現在	84	67	48	76	146	15	436
H28.3.31現在	37	35	20	27	71	7	197
H29.3.31現在	44	40	29	24	65	6	208

(さいはま園)

上越市	他市町村
11	
11	
12	
10	
13	
13	
12	
11	2
12	1

事業・職種別職員数一覧

H29.3.31現在

職種別	事業別	特養入所	障害支援	通所介護	地域包括支援	居宅介護支援	合計
統括施設長	正職員	1					1
	臨時職員						0
	パート職員						0
	合計	1	0	0	0	0	1
課長 (事務長含む)	正職員	3	1				4
	臨時職員						0
	パート職員						0
	合計	3	1	0	0	0	4
事務員	正職員	1	1				2
	臨時職員						0
	パート職員	1					1
	合計	2	1	0	0	0	3
生活相談員 (サービス管理責任者 含む)	正職員	2	1	2			5
	臨時職員						0
	パート職員						0
	合計	2	1	2	0	0	5
介護支援専門員	正職員	2				1	3
	臨時職員						0
	パート職員						0
	合計	2	0	0	1	3	6
社会福祉士	正職員					1	1
	臨時職員						0
	パート職員						0
	合計	0	0	0	1	0	1
看護職員	正職員	5	1			1	7
	臨時職員		1	1			2
	パート職員	2		3			5
	合計	7	2	4	1	0	14
機能訓練員	正職員	1	1	0			2
	臨時職員						0
	パート職員						0
	合計	1	1	0	0	0	2
介護職員(生活支援員)	正職員	41	10	2			53
	臨時職員	11	1	7			19
	パート職員	3	1	1			5
	合計	55	12	10	0	0	77
管理栄養士	正職員	1					1
	臨時職員						0
	パート職員						0
	合計	1	0	0	0	0	1
調理員	正職員	3	2				5
	臨時職員			1			1
	パート職員	1					1
	合計	4	2	1	0	0	7
施設支援員	正職員	1					1
	臨時職員						0
	パート職員						0
	合計	1	0	0	0	0	1
清掃洗濯員	正職員						0
	臨時職員						0
	パート職員	3	1				4
	合計	3	1	0	0	0	4
宿日直代行員	正職員						0
	臨時職員						0
	パート職員	1					1
	合計	1	0	0	0	0	1
保安員	正職員						0
	臨時職員	1					1
	パート職員						0
	合計	1	0	0	0	0	1
運転員	正職員						0
	臨時職員						0
	パート職員	1	1	2			4
	合計	1	1	2	0	0	4
(嘱託医師)	正職員						0
	臨時職員						0
	パート職員	②	①				③
	合計	②	①				③
合計	正職員	61	17	4		3	88
	臨時職員	12	2	9		0	23
	パート職員	12	3	6		0	21
	合計	85	22	19	3	3	132

*H29.3.31付け退職者含む

職員の動向等

1. 採用の状況(平成28年4月1日～平成29年3月31日、平成29年4月1日付採用内定者含む)

	介護職員	看護職員	調理員	事務員	清掃員	28年度計	27年度計	26年度計
応募者数	10	3	1	7	1	22	23	4
採用内定者数	8	3	1	1	1	14	18	3
採用辞退者数	1	0	0	0	0	1	0	0
本採用者数	7	3	1	1	1	13	18	2

雇用形態	正規	臨時	非常勤	計
	6	2	5	13

採用区分	新卒	中途	障害者	計
	2	11	0	13

2. 退職の状況(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

退職者数	介護職員	看護職員	調理員	清掃員	28年度計	27年度計	26年度計	25年度計
	4	4	1	1	10	11	19	17

雇用形態	正規	臨時	非常勤
	6	1	3

3. 安全衛生管理の状況(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

3-1) 職員の平均年齢・性別(平成29年3月31日現在)

職員数	男性	女性	平均年齢	
132名	34名	98名	43.8歳	28年度
129名	34名	95名	42.1歳	27年度
126名	31名	95名	42.2歳	26年度

3-2) 職員健康診断の実施状況

定期健康診断	5月 (夜勤者)	11月 (全職員)	合計
受診者	46	122	168
要精密検査	5	43	48
産業医面談実施	0	4	4

3-3) 労働災害発生状況

内容	勤務中	通勤途上	合計
	2	0	2

*不労災害2件

4. 育児休業の状況(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

	女性	配偶者が出 産した男性	合計
出産者	3	6	9
育児休業者	3	0	3

5. 介護休業の状況(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

介護休業者	女性	男性	合計
	0	0	0

平成28年度施設外研修等一覧

日付	研修会名	主催	場所	参加者	参加人数
4/19	28年度安全管理指導事業に係る集団指導	上越労働基準監督署	市内	副施設長	1
4/20	地域包括ケアの現状と次年度改定の動向	新潟県介護支援専門員協会	市内	居宅介護支援	3
5/10	28年度第1回実習指導者会議	上越保健医療福祉専門学校	市内	介護課長、支援課長	2
5/18	第1回大潟区・頸城区個別地域ケア会議	大潟区・頸城区総合事務所、地域包括支援センター	市内	居宅介護支援	2
5/25	第18回衛生セミナー(災害時等の食中毒・感染症予防)	(株)タマルヤ	市内	栄養士	1
5/25	28年度担当者会議	上越地域障害者支援施設協議会	糸魚川市	支援課長	1
5/31	28年度福祉実習指導者会	上越看護専門学校	市内	地域包括支援	1
6/2	上越地域居宅介護支援事業推進協議会講演会	上越地域居宅介護支援事業推進協議会	市内	居宅介護支援	3
6/6	28年度障害関係施設長会議	新潟県福祉保健部障害福祉課	新潟市	支援課長、サービス管理責任者	2
6/13,14	28年度第1回総会・施設長会議	関東・甲信越地区身体障害者施設協議会	さいたま市	施設長	1
6/16	メインディッシュ展示会	日本食研	市内	栄養士	1
6/24	上越地区老人福祉施設 施設長・事務長会議	(当番監事)特別養護老人ホームいたくら桜園	市内	副施設長	1
6/24	28年度第1回総会・施設長・庶務担当課長会議	新潟県身体障害者施設協議会(当番施設)	長岡市	施設長、支援課長、相談	3
7/5,6	28年度新潟県相談支援従事者初任者研修	新潟県福祉保健部障害福祉課	新潟市	介護	1
7/14	第2回大潟区・頸城区個別地域ケア会議	大潟区・頸城区総合事務所、地域包括支援センター	市内	居宅介護支援	1
7/15,16	施設経営勉強会	(担当施設)あさひ円	弥彦村	支援課長、サービス管理責任者	2
7/19,20	28年度社会福祉施設中堅職員研修	新潟県社会福祉協議会	新潟市	介護	2
7/20	新潟県老人福祉施設協議会第5ブロック28年度第1回研修会	新潟県老人福祉施設協議会	市内	地域包括、施設長、介護課長、相談	7
7/21,22	第40回全国身体障害者施設協議会研究大会	全国身体障害者施設協議会	名古屋市	介護	2
7/28	上越脳卒中セミナー	武田薬品工業(株)長岡営業所	市内	居宅介護支援	1
7/29	応急手当普及員再講習	上越地域消防事務組合	市内	施設長、介護課長	2
7/31	介護福祉士現任研修(高齢者虐待防止予防)	新潟県介護福祉士会	燕三条	介護課長、相談、介護	4
8/3	28年度/バザール講習会(食品衛生講習会)	上越保健所生活衛生課	市内	栄養士	1
8/24	28年度全体研修会	新潟県介護支援専門員協会	市内	施設介護支援専門員、相談	3
8/25	介護支援専門員実務研修実習指導者事前研修	新潟県介護支援専門員協会	市内	居宅介護支援	1
8/26	28年度新潟県身体障害者施設協議会職員研修会	新潟県身体障害者施設協議会	長岡市	介護	1
8/30	新総合事業・訪問型サービス事業に関する説明会	上越市高齢者支援課	市内	居宅介護支援	2
9/2	安全運転管理者等講習	新潟県警察本部交通企画課	市内	施設長	1
9/6	改正社会福祉法対応実証セミナー	TKC全国社会福祉法人経営研究会	新潟市	管理課長	1
9/8	第36回 担当者研修会	上越地域障健健康づくり連絡協議会	市内	管理課長	1
9/12,13	第22回新潟県老人福祉施設研究大会	新潟県老人福祉施設協議会	長岡市	介護、相談、地域包括支援	6
9/13	高室成幸先生特別講演会	エフピー介護サービス(株)上越営業所	市内	居宅介護支援	3
9/15	第3回大潟区・頸城区個別地域ケア会議	大潟区・頸城区総合事務所、地域包括支援センター	市内	居宅介護支援	3
9/21	地域包括支援センター・ケアマネジャーと相談医との懇談会	上越医師会	市内	地域包括支援	2
9/26	防災講演会	頸北防火管理者協会	市内	施設長、介護課長、支援課長	3
9/26	意見交換会	上越地域障害者支援施設協議会	糸魚川市	看護、栄養、機能訓練	3
9/28	訪問栄養指導時行に関する説明会	上越市高齢者支援課介護指導係	市内	居宅介護支援	1
9/29,30	第37回関東・甲信越地区身体障害者施設職員研修大会	関東・甲信越地区身体障害者施設協議会	新潟市	施設長、支援課長、相談、介護	4
10/7,12/8,9	28年度新潟県サービス管理責任者研修	新潟県福祉保健部障害福祉課	新潟市	介護	1
10/14	28年度支援担当課長会議	新潟県身体障害者施設協議会	長岡市	支援課長、サービス管理責任者	2
10/18,19	28年度新任職員研修	新潟県老人福祉施設協議会	燕三条	介護	1
10/26,11/17	難病訪問相談員等育成研修会	上越地域振興局健康福祉環境部	市内	居宅介護支援	1
10/20	MCネット導入についての説明会	上越市高齢者支援課介護指導係	市内	居宅介護支援	2
10/22	社会福祉施設防火管理研修	上越地域消防事務組合	市内	介護	2
10/26	平成28年度外部研修会	上越地域障健健康づくり連絡協議会	新潟市	管理課長	1
10/28	28年度上越地区サービス管理責任者現任研修	上越サビ管ネットワーク	市内	サービス管理責任者	1
10/28	頸北3区介護支援専門員連絡会	頸北3区地域包括支援センター	市内	居宅介護支援	2
11/9	介護予防ケアマネジメントについて	上越地域居宅介護支援事業推進協議会	市内	居宅介護支援	2
11/15	年末調整説明会	高田税務署	市内	事務	1
11/18	新潟県身体障害者施設協議会庶務担当者会議	新潟県身体障害者施設協議会	長岡市	管理課長、事務	2
11/17	28年度多職種連携・機能訓練	新潟県老人福祉施設協議会	燕三条	機能訓練	2
11/18	28年度施設介護支援専門員研修会	新潟県介護支援専門員研修会	新潟市	施設介護支援専門員	2
11/18	28年度第2回施設長会議	関東・甲信越地区身体障害者施設協議会	東京都	施設長	1
11/18	働きやすい職場づくりに向けたワークライフバランス推進リーダー養成講座	新潟県(委託先:グローバルマーケティング(株))	市内	副施設長	1
11/22	第5ブロック部会28年度第2回研修会	新潟県老人福祉施設協議会	市内	施設長、副施設長	2
11/22	認知症サポーター上級者育成「ステップアップ講座」	新潟県、全国キャラバンメイト連絡協議会	新潟市	地域包括支援	1
11/28,27	第4回「町内・集落福祉全国サミットin奥津」	第4回「町内・集落福祉全国サミットin奥津」実行委員会	福島県	地域包括支援	1
12/1	ケアプラン点検から見たケアマネジメントの考え方について	上越地域居宅介護支援事業推進協議会	市内	居宅介護支援	2
12/12	第5ブロック介護支援専門員の集い	新潟県介護支援専門員協会、上越地域居宅介護支援事業推進協議会	市内	居宅介護支援	2
1/18	第1回大潟区地域ケア会議	地域包括支援センターうのはな苑	市内	居宅介護支援	2
1/19	第5回大潟区・頸城区個別地域ケア会議	大潟区・頸城区総合事務所、地域包括支援センター	市内	居宅介護支援	3
2/3	28年度新潟県精神医療・保健・福祉関係者合同実践セミナー	新潟県精神医療機関協議会他4機関	新潟市	地域包括支援	1
2/23,24	28年度第2回総会・第3回施設長会議	関東・甲信越地区身体障害者施設協議会	長野県	支援課長	1
2/23	第2回大潟区地域ケア会議	地域包括支援センターうのはな苑	市内	居宅介護支援	2
2/24	28年度 ひもとぎシート活用シンポジウム	社会福祉法人地組会 認知症介護研究・研修東京センター	東京都	認知症介護指導者	1
3/3	第2回総会・施設長・庶務担当課長会議	新潟県身体障害者施設協議会(当番施設)	長岡市	施設長、副施設長、相談	3
3/5	地域包括ケア「あなたは何をやる人？」～社会福祉士の役割～	新潟県社会福祉士会高齢者支援班	市内	副施設長	1
3/7	28年度県立大潟水と森公園外部評価委員会	新潟県都市緑化センター大潟水と森公園事務所	市内	支援課長	1
3/13	視察研修報告会	上越地域障害者支援施設協議会	糸魚川市	支援課長、介護	2
3/15	第6回大潟区・頸城区個別地域ケア会議	大潟区・頸城区総合事務所、地域包括支援センター	市内	居宅介護支援	1
3/17	障害者総合支援法等関係説明会	新潟県福祉保健部障害福祉課	新潟市	支援課長、サービス管理責任者	2
3/23	上越市介護保険事業に関する説明会	上越市高齢者支援課介護指導係	市内	居宅介護支援、特養、通所介護	5

平成28年度施設内研修等一覧

日付	研修会名	主催	講師(説明者)	参加人数
4/5,7,11	28年度事業計画及び法令遵守に関する職員説明会	しおさいの里等複合施設	統括施設長	116
4/20	理学療法の観点からの腰痛予防	しおさいの里等複合施設	さくらメディカル(株)(大瀬哲也医療福祉研究センター)	15
5/18	メンタルヘルズに関する職員研修会	管理課・衛生委員会	上越市健康福祉部健康課(田村秋子(保健福祉部長))	41
6/15	救命入門講習会	しおさいの里等複合施設	頸北消防署	23
6/21	災害時における食中毒・感染症予防に関する復命研修会	衛生委員会・感染症対策委員会	二ノ倉管理栄養士	18
7/20	施設マニュアル研修会	感染症防止委員会・ケア向上委員会	委員	22
7/29	防災に関する研修会	防災委員会	頸北消防署(金子消防士)	26
8/17	職場における血液媒介感染症対策	感染症防止委員会	県立中央病院(相田清子感染管理認定看護師)	18
9/21	痰吸引等医療行為技術に関する研修会	事故防止・安全委員会	施設内認定特定行為業務従事者、看護職員	23
9/29	学習成果発表会・復命研修報告会	しおさいの里等複合施設	外部研修参加者	28
10/18	流行性感染症対応に関する研修会	感染症対策委員会	委員	17
11/16	誤飲事故・防止と事故対応に関する研修会	事故防止・安全委員会	委員	20
11/30	日ごろの対応を振り返ろう～感じのよい話し方をみつけよう～	人権意識向上委員会	委員	33
12/21	介護技術向上に関する研修会	ケア向上委員会	コニ・チャーム(株)(室橋貴久子様)、委員	26
1/19	口腔ケア研修会(お口の健康について)	食事委員会	小山歯科医師、岩片歯科衛生士、奥泉歯科衛生士	23
2/1,15	普通救命講習Ⅰ	しおさいの里等複合施設	頸北消防署	20
3/29	交通安全研修会	しおさいの里等複合施設	上越警察署(交通課井上交通指導係長)	22
				491

職員資格取得状況一覧(述べ数)

資格・免許		平成28年4月1日現在	平成29年4月1日現在	増減
看護・機能訓練等	看護師	6	6	0
	准看護師	7	6	-1
	作業療法士	1	1	0
	あんまマッサージ指圧師	1	1	0
	歯科衛生士	1	1	0
	衛生管理者	1	1	0
介護	介護福祉士	74	76	2
	ホームヘルパー1級	11	12	1
	ホームヘルパー2級	37	38	1
	認定特定行為業務従事者(50時間研修修了者)	11	10	-1
	認定特定行為業務従事者(14時間研修修了者)	46	43	-3
	認知症介護実践者研修修了	5	5	0
	認知症介護指導者養成研修修了	1	1	0
相談援助	主任介護支援専門員	3	3	0
	介護支援専門員	16	18	2
	社会福祉士	7	7	0
	精神保健福祉士	3	3	0
	サービス管理責任者	5	5	0
	社会福祉主事任用資格	31	31	0
栄養	管理栄養士	1	1	0
	栄養士	1	1	0
	調理師	8	8	0
計		277	278	1

*4月1日付採用内定者含む

特別休暇(自己啓発援助制度)の取得状況

資格	休暇申請者数	休暇取得日数(延べ)
-	0	0

外部実習受入及び地域交流等の状況(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

1) 専門実習、福祉体験学習等受入の状況

日付	実習名	依頼元団体	受入部門	人数
4/14,他14回	在宅看護論実習	上越看護専門学校	地域包括支援センター	13
4/22	施設見学	社会福祉法人新潟みずほ福祉会	さいはま園	4
5/10～14,他7回	老年看護学Ⅰ実習	上越看護専門学校	しおさいの里	37
6/1,9/23	特殊浴槽見学	社会福祉法人えちご府中会	しおさいの里	10
6/13～6/29	介護実習Ⅲ	上越保健医療福祉専門学校	しおさいの里	2
7/13,15	ふれあい交流	上越市立はまっこ保育園	デイサービス	34
7/21	施設見学	上越市大潟区民生委員児童委員協議会	しおさいの里等複合施設	20
8/1～8/5	職場体験学習	上越市立大潟町中学校2学年	しおさいの里、さいはま園、デイサービス	8
8/9	介護体験	新潟県立高田北城高等学校2学年	しおさいの里	1
8/15～9/2	職場実習	夕映えの郷	さいはま園	1
8/29～9/2	教員免許状授与に係る介護等体験	新潟大学	さいはま園	1
8/31	地域包括支援センター実習	新潟県立看護大学	地域包括支援センター	4
9/5～8	インターンシップ	新潟県立高田農業高等学校	しおさいの里	1
9/30,10/3,4	介護員養成研修	上越市社会福祉協議会	しおさいの里	1
10/3～12,10/14～24	介護実習Ⅰ	上越保健医療福祉専門学校	さいはま園	4
11/5	施設見学	社会福祉法人さかえ福祉会(家族会)	しおさいの里等複合施設	19
10/7	町たんけん(施設見学)	上越市立大潟町小学校2学年	しおさいの里等複合施設	10
11/7～11/19	施設実習(保育実習Ⅲ)	新潟中央短期大学	さいはま園	1
11/21	施設見学	社会福祉法人しろね福祉会	デイサービス	5
11/30～2/22	職場実習	新潟県立吉川高等特別支援学校	清掃部門	1
12/3	清掃活動	大潟町中学校奉仕クラブ	しおさいの里等複合施設	15
12/7～9	総合的学習(利用者交流)	上越市立大潟町中学校3学年	しおさいの里等複合施設	50
2/9	地域支え合い事業見学	社会福祉法人しろね福祉会	介護予防教室等	8
2/27～3/10	インターンシップ	武蔵丘短期大学	厨房、しおさいの里、さいはま園、デイサービス	1
3/8	職場インタビュー	上越市立大潟町中学校1学年	デイサービス	3
				254

2) イベント開催・参加等の状況

日付	名称(場所)	概要	参加数
4/7他8回	「いきいきサロン」への講師派遣	体力測定や転倒予防の体操、認知症や生活習慣病予防の講話(地域包括支援センター)	122
5/18	年輪会(潟町老人会)への講師派遣	地域支え合い事業の紹介、認知症に関する講話等(地域包括支援センター)	21
6/5	ガス水道フェアでの出張カフェ(認知症カフェうみまち茶屋)	おおがたかつば祭りと同日に行われる水道フェアに出店し、認知症に関する地域への啓発活動を行う	100
6/11	「第15回ふくしのひろば」(リージョンプラザ上越)への参加	アダプテッド・スポーツ(年齢や障がいに関わらず、誰もが参加できるスポーツ)の体験交流会の実施(さいはま園)	100
6/13,12/13	施設内訪問衣類販売会	施設利用者に買い物機会の提供	100
6/27	地域貢献(社会奉仕)活動の実施	職員とその子どもが参加し、犀潟児童遊園の環境整備を実施(しおさいの里等複合施設・犀潟町内会合同)	21
7/26	土底浜老人会への講師派遣	「認知症」や「介護保険」に関する講話(地域包括支援センター)	20
7/28,全3回	地域ケア会議	地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みとして、地域の関係者で地域課題を協議(地域包括支援センター)	102
10/1	第1回うみまちフェスティバルの開催	利用者、家族、職員、ボランティア、地域住民との交流を促進する(夕映えの郷との合同開催)	500
10/29	「大潟福祉まつり」(大潟保健センター)への参加	利用者の作品展示、介護相談、福祉用具展示、脳トレ、認知症の勉強会開催等(夕映えの郷と合同参加)	100
11/19	うみまちフリーマーケット	地域住民ならびに団体に施設内を開放し、フリーマーケットを通じた施設と地域との交流を促進する	100
3/1他2回	認知症サポーター養成講座の開催	認知症を正しく理解し、認知症の人への「応援者」の養成(地域包括支援センター)	95
			1381

3) 介護予防事業(ココカラプロジェクト「だんだん広場」)開催状況

クラス名	開催時期	場所	実施回数	延参加人数
うのはなクラス	週1回(火曜日)	上越市大湯保健センター	48回	1,418人
さいがたクラス	週1回(水曜日)	しおさいの里ボランティアルーム	47回	1,348人
さいがたクラス	週1回(木曜日)	しおさいの里ボランティアルーム	47回	1,159人
合計			142回	3,925人

4) 上越市地域支え合い事業(まちづくり大湯委託事業)

日付	名称(場所)	概要	延参加人数
4/8他,全11回	介護者家族の集い	介護者の悩み相談、介護者同士の情報交換の場、介護者教室(地域包括支援センター)	108人
4/22他,全12回	認知症カフェ「うみまち茶屋」	認知症の人やその家族、地域住民等が気軽に集い交流を図ったり、認知症について情報交換を行う場(地域包括支援センター)	272人
4/6他,全47回	介護予防教室「だんだん広場」水曜クラス	介護予防に筋力維持や改善、認知症予防等を目的とした体操やレクリエーションの実施するとともに、参加者同士が交流することによる生きがいづくりや社会参加促進の取り組みとして実施する	1,348人

5) ボランティア受入の状況

延受入回数	231回	内容:利用者交流(お話等)、織い物、うみまちフェスティバル等イベント補助、余興(踊り、唄、太鼓披露等)、美容、生け花指導、書道指導、ハンドマッサージ、介護予防教室運営補助、認知症カフェ運営補助、クラブ活動補助、リネン交換、ラーメンの提供、その他
延受入人数	786人	

6) 施設設備・備品等の地域への開放・貸出

内容:スポーツ器具(ボッチャ)の貸出(所属する大学での臨床実習で使用(障害児へのスポーツ活動支援))、うみまちフリーマーケットでの施設開放、介護者教室の開催(施設の開放、介護技術の提供)

7) 広報活動等

名称	発行日等	備考
公式ホームページ(http://www.siosainosato.jp)	随時更新	年間アクセス数18,765件(月平均1,563アクセス)
広報「しおさい」	年1回発行(1月)	各800部(利用者、家族、地域回覧、関係機関等配布)
地域包括支援センター広報「おおがたうのはな日和」	年3回発行(4月、9月、2月)	各3,200部(大湯区内全戸配布)
あつと・ホーム	毎月1回発行	特養部門ご家族に配布
じよんのび・ネット	毎月1回発行	さいはま園ご家族に配布
ゆりかご通信	毎月1回発行	デイサービスセンターご家族に配布
第1回「うみまちフェスティバル」開催チラシ	9月発行	300部(大湯区各町内会回覧)
上越タイムス	年3回掲載(8月、1月、3月)	施設紹介を兼ねた介護特集・協賛広告を掲載
新潟日報	1/1付け朝刊	年賀名刺広告

苦情解決の状況

1) 苦情受付期間

平成28年4月1日～平成29年3月31日

2) 苦情受付件数

年度	28年度	27年度	26年度	25年度	24年度	23年度
件数	4件	2件	5件	6件	10件	14件

(4件の事業別内訳)

複合施設 全体	特養 (入所)	特養 (短期)	通所介護	居宅介護 支援	地域包括 支援	障害支援	その他
	2		1				1

3) 苦情申出人の状況

	28年度	27年度	26年度	25年度	24年度	23年度
ご利用者本人	2件	2件	1件	2件	6件	5件
ご家族・身元引受人	1件	件	3件	3件	3件	6件
第三者 (介護支援専門員等)	1件	件	1件	1件	1件	3件

4) 苦情の内容

①サービスの内容(量・質)に関する こと	1	・同室者の生活音に関する こと
②説明不足・情報提供に関する こと	-	
③職員の接遇(言葉使い・態度に 関すること)	2	・会話中の職員の返答の仕方に関する こと ・介助中の職員の態度に関する こと
④権利侵害(プライバシー等)に関 すること	-	
⑤個人の嗜好・選択に関する こと	-	
⑥その他	2	・送迎中の路上駐車に関する ことについて ・物品等の保管(整理整頓)に 関することについて

5) 苦情受付の結果

それぞれの苦情・意見・要望等を真摯に受けとめ、職員間で共有し、都度改善に向けた取り組みを行った。

平成28年度地域包括支援センター運営事業報告書

地域包括支援センターうのはな苑

①総合相談支援

○相談件数

相談延件数	月平均件数
1,295	107

○相談経路及び方法

<相談経路>

	相談延件数	月平均件数
本人	519	43
家族等	372	31
関係機関	396	33
相談協力員	0	0
その他	8	1

<相談方法>

	相談延件数	月平均件数
電話	546	45
文書	13	1
来所	178	15
訪問	427	35
巡回	131	11

5月、健康診査の会場で地域包括支援センターのコーナーを設置し、来場者487名にリーフレットを配布したり、地域支え合い事業の紹介をした。健康や生活に関する悩み相談を受け付け、地域住民への周知が広がっていると感じている。

法人のホームページで活動内容を報告したり、区内の全世帯に広報誌「うのはな日和」を3回配布し、活動の情報発信に努めている。

民生委員の定例会に参加し、顔の見える関係の構築に努めている。12月に民生・児童委員の改選があったが、協議会主催の歓送迎会に参加し、新任の民生委員とも情報交換を通じて関係の構築に努めた。

地域包括支援センターの周知ができていたり、大湊区総合事務所の隣に事務所があることで、電話や来所の相談が増えてきている。

(1)実態把握

実態把握延件数	月平均件数
204	17

実態把握は400件を目標としていたが、204件の訪問、達成率は51%であった。毎月、30件以上訪問するために月間予定の中に実態把握の日を決めて活動していたが、月によっては他業務との調整により訪問できないことも多かった。実態把握の訪問予定回数を増やしたり、毎月の会議で実態把握の進捗状況を確認しながら、計画的に実施できるようにしていく。

②権利擁護

○権利擁護に関する相談

	相談延件数
虐待(疑いを含む)	10
消費者被害	1
多重債務	1
日常生活自立支援事業	1
成年後見制度	22

(1)成年後見制度

成年後見等に関する相談者は6名。うち2件の申し立て支援を行い、1件は申し立て準備中である。申し立てを行った方は独居の方が認知症の進行により金銭管理や契約行為ができなくなったことで支援を行った。その他3名は医療機関からの紹介や家族の中で金銭に関する相談があり、制度の説明を行った。今後も認知症高齢者が増加していくことが予想されており、金銭管理や身上監護で支援が必要な場合には関係者と協力して申し立ての支援を行っていく。

(2) 高齢者虐待への対応

高齢者虐待の相談を2件受付。上越市の高齢者虐待防止マニュアルに沿って大潟区総合事務所と連携を図り、事実確認、コアメンバー会議、対応評価会議を実施した。2件とも要介護状態であり、ケアマネやサービス事業所と連携を図り、虐待の解消に向けて取り組みを行った。1件は本人死亡により終了し、もう1件は継続して支援を行っている。

(3) 困難事例への対応

高齢者虐待に限らず、介護支援専門員より困難事例の相談があった場合には区総合事務所や上越市高齢者支援課に連絡し、連携を図りながら支援を行っている。必要に応じて個別ケース会議を開催し、民生委員等の関係者にも参加を依頼し、状況の確認や支援方法の検討を行った。次年度も地域から困難事例の相談があった場合には関係者、関係機関と連携を図りながら支援を行っていく。

(4) 消費者被害防止

介護予防教室3クラスで新潟県消費者生活サポーターの方より「悪徳商法・特殊詐欺にあわないために」をテーマに講習会を開催し、80名の方が参加した。参加者はアンケートで概ね理解できたと回答していた。

家族から悪徳商法の被害にあっているのではないかと相談があり、支援を行うとともに、区総合事務所に報告した。

③ 包括的・継続的ケアマネジメント業務

(1) 地域ケア会議

年度当初に大潟区総合事務所と居宅介護支援事業所の管理者と地域課題を把握するために打ち合わせを行い、認知症をテーマに区内の町内会長、民生委員、住民団体、介護サービス事業所に参加していただき、当事者の立場に立って自分たちにできることをグループワークで検討を行い、意見の共有を図った。今後は検討された意見が実際に取り組みとして動き出せるように関係者との協議を行っていく必要がある。

	開催日	内容	参加人数
第1回	1月18日	認知症の人とその家族の想いを理解する	36名
第2回	2月23日	高齢者の運転について考える	34名
第3回	3月16日	地域で認知症の理解を広げるためにできること	32名

(2) 介護支援専門員に対する支援

	相談延件数
担当者会議	10
同行訪問	30
単独訪問	18
社会資源の紹介	5
関係機関の調整	25
ケアマネへの研修会	1
本庁・総合事務所への連絡	13

日頃から介護支援専門員から電話で相談を受けたりすることもあるが、来所時や事業所の訪問時に情報の共有を図ることで連携しやすい関係を構築している。

介護支援専門員に対する研修は頸北名立地区で計画もあったが、諸事情により中止となった。介護予防サービス計画の作成について柿崎、吉川、大潟の地域包括支援センターで開催し、作成方法や日頃の疑問点について意見交換を行った。大潟区内の介護支援専門員に対し、高齢者のフレイルと低栄養について区保健師の講義とともに高齢者のソフト食の試食会を行い、支援に役に立つ情報提供を行った。今年度は事業所の管理者と会議をする機会が多かったが、地域の介護支援専門員を対象にした連絡会を定期的に開催し、さらに連携が図りやすい体制を整えていく。

(3) 個別地域ケア会議

大潟区と頸城区の合同開催でそれぞれ3回ずつ、計6回実施した。大潟区総合事務所と地域の居宅介護支援事業所の管理者と事例の選定やより意見が出しやすいよう事前に打ち合わせを行い、事例検討することができた。個別地域ケア会議の内容から地域課題を把握し、地域ケア会議につなげていくことができた。今年度の取り組みを踏まえ、来年度も頸城区と合同開催を予定しており、運営方法について一緒に協議していく予定である。

④第1号指定介護予防支援(介護予防マネジメント)

○認定者の状況(平成28年3月末現在)

認定者数			予防給付		介護予防ケアマネジメント	
チェックリスト	要支援1	要支援2	利用者数	うち委託数	利用者数	うち委託数
28	45	73	83	32	33	8

8月、市の実施指導により、運営基準の再確認を行うとともに結果に基づき、改善方法を検討し、改善計画を市に提出した。

5月に提出した介護予防サービス計画で市からの指摘事項は職員内で確認を行うとともに区内の業務委託している事業所に周知を行った。

介護予防サービス計画書を確認するときは現行相当サービスを位置づける場合の根拠が記載されているか確認するとともに、状況を把握するようにしている。介護支援専門員からサービス担当者会議の依頼があった場合には可能な限り参加するようにしている。

⑤介護予防に関する普及・啓発を行う事業

(1)介護予防教室(だんだん広場)

水曜日はまちづくり大潟からの受託事業として、火・木曜日は法人独自事業として取り組んでいる。登録は最大で107名。介護サービスに移行等で終了した方が3名。その他の理由で中止した方が6名であった。年2回、効果測定を実施し、取り組みの評価を行い概ね維持もしくは改善の方が多く、取り組み内容に一定の成果があると考えている。

(2)介護者のつどい

毎月1回(8月を除く)、年11回開催。延108名が参加。介護の相談や情報交換だけでなく、サンクス高田などの施設見学や区保健師や管理栄養士による健康講座、地域の事業所による介護者教室を企画し、参加者からは好評をいただいた。

(3)認知症カフェ

毎月第4金曜日の13時から16時で年12回開催。延272名が参加。毎回1時間程度の認知症の支援や予防に関するミニ講座を開催し、参加者も楽しみにしている。新潟青陵大学や上越市社会福祉協議会からの見学があり、取り組みの意見交換をしている。また、大潟区のカフェで出張カフェを開催したり、大潟ふくしまつりで出店するなど多くの住民に活動のPRを行った。年2回運営委員会を開催し、活動内容を振り返るとともに多様な意見を参考に運営に活かしている。

(4)認知症サポーター養成講座

頸北名立地区地域包括でキャラバン・メイトが認知症サポーター養成講座を開催できるようにフォローアップ研修を開催した。3月に大潟区の介護予防教室3クラスで実施し、延べ95名の参加があった。

引き続き、認知症に関する理解を深め、対応力の向上を図ることを目的に頸北名立地区キャラバンメイト連合会と連携して取り組んでいく予定である。

(5)講師依頼

毎年、地域のいきいきサロンや老人会から講演依頼があり、介護予防や健康に関することや地域包括支援センターのPRを行っている。新潟県老人福祉施設協議会の第5ブロック研修会で「総合事業の現状と課題」の講演を行い、上越市の取り組みを紹介した。

日程	事業名	参加者数	内容
4月7日	渋柿浜いきいきサロン	20名	脳トレ、健康講話
4月20日	下小船津浜いきいきサロン	7名	体力測定、脳トレ
4月21日	土底浜いきいきサロン	26名	体力測定、健康講話
4月26日	上小船津浜いきいきサロン	8名	体力測定、脳トレ
5月19日	潟町老人会	21名	地域支えい事業の紹介、健康講話
6月23日	犀潟いきいきサロン	28名	体力測定、総合事業の紹介
6月24日	メンズサロン	15名	健康講話
7月22日	メンズサロン	10名	健康講話
7月26日	土底浜老人会	20名	健康講話
8月23日	上小船津浜いきいきサロン	8名	健康講話